

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果報告書



伊丹市教育委員会

はじめに

平成29年3月、文部科学省は、幼小中の学習指導要領等の改訂告示を公示しました。小学校では平成32年度、中学校では平成33年度から全面実施されます。子どもたちの「未来を切り拓く力」を育成するために新学習指導要領が目指す基本理念として「社会に開かれた教育課程」を掲げています。この理念を基盤として、育成を目指す資質・能力が大きく取り上げられ、3つの柱で構造的に示されています。

「3つの柱」とは、①何を理解しているか（知識・技能）②理解していることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）③どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性）の3つです。習得した知識を既存の知識と関連づけて理解を深め、他の学習等で活用し、確かな力としていくことが求められています。

全国学力・学習状況調査では、新学習指導要領を見据えた問題が出題されています。提示された資料から理由を読み取って指定字数で文章を書く、話し合いの場面を取り上げて互いの意見や発言の意図を理解する等、単なる記憶としての知識だけでは課題の解決ができないような、知識を活用して思考することができるかどうかを測る問題となっています。

私たち教職員は、これからの時代を生き抜いていく子どもたちに育成しなければならない資質や能力をしっかりと捉え、育成の実現に結びつけなくてはなりません。

教育委員会では、全国学力・学習状況調査結果が実施されて以来、調査結果の分析を行い、伊丹市の子どもたちの状況を把握するとともに、重点的に取り組む事項を明らかにしています。具体的には、①授業改善 ②書く活動の充実 ③表現する活動の充実 ④読書活動の充実 ⑤わかる授業の創造 ⑥生活習慣の確立 ⑦学習習慣の確立 ⑧社会事象に関心を持つこと です。

これは、どれも当たり前のことであり、教育の不易の部分であります。しかし、この不易の取組に、新たに求められる学力観を取り入れ、当たり前のことを徹底してやることこそが、子どもたちが課題や困難に主体的に立ち向かい、自ら考え、課題を解決していく力を身につけさせられるものだと強く感じています。

今後も、これからの社会の中で強くたくましく生きる、自分の未来を切り拓いていく伊丹の子どもたちを育むため、学校、家庭、地域が一丸となって取り組む豊かな教育を進めてまいります。

平成29年10月

伊丹市教育長 木下 誠

目次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 2
目次	・ ・ ・ ・ ・ 3
1 調査の概要	・ ・ ・ ・ ・ 4
2 「教科に関する調査」調査結果	・ ・ ・ ・ ・ 5
教科別調査結果の詳細	・ ・ ・ ・ ・ 8
小学校国語A・B、算数A・B	・ ・ ・ ・ ・ 8
中学校国語A・B、数学A・B	・ ・ ・ ・ ・ 15
3 伊丹市学習到達度調査結果	・ ・ ・ ・ ・ 26
4 取組の概念図と具体的取組	・ ・ ・ ・ ・ 31
(1) 授業改善（主体的・対話的で深い学びの視点）	・ ・ ・ ・ ・ 33
(2) 考えて書く活動の充実	・ ・ ・ ・ ・ 34
(3) 発表する活動の充実	・ ・ ・ ・ ・ 35
(4) 読書活動の充実	・ ・ ・ ・ ・ 36
(5) わかる授業の創造（学力低位層の底上げ）	・ ・ ・ ・ ・ 37
(6) 生活習慣の確立	・ ・ ・ ・ ・ 38
(7) 学習習慣の確立	・ ・ ・ ・ ・ 39
(8) 社会事象に関心を持つ	・ ・ ・ ・ ・ 40

1

調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ② 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査内容

① 教科に関する調査

A (主として「知識」に関する問題)	B (主として「活用」に関する問題)
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	<ul style="list-style-type: none">・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査実施日等

平成29年4月18日(火)

(5) 調査を受けた児童・生徒数

単位：(人)

	小学校6年生	中学校3年生
全国(公立)	1,031,772	1,040,281
兵庫県(公立)	45,582	44,620
伊丹市	1,759	1,641

(6) 調査の解釈にあたって留意いただきこと

本調査では、児童生徒の学力全体を明らかにすることはできません。調査した教科は2教科のみであり、設問の内容も学習内容を全て網羅しているとは限りません。したがって、調査の結果から分かるのは、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部や、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

2

「教科に関する調査」調査結果

(1) 平均正答率

小学校

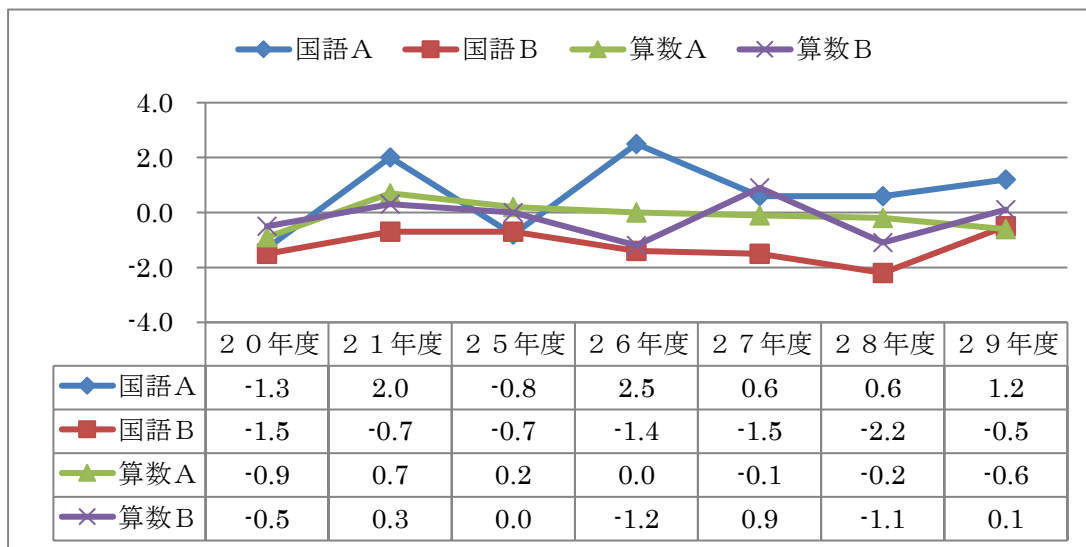
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	総合平均
伊丹市	76	57	78	46	257	64.3
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	256.8	64.2
全国差	1.2	△0.5	△0.6	0.1	0.2	0.1

中学校

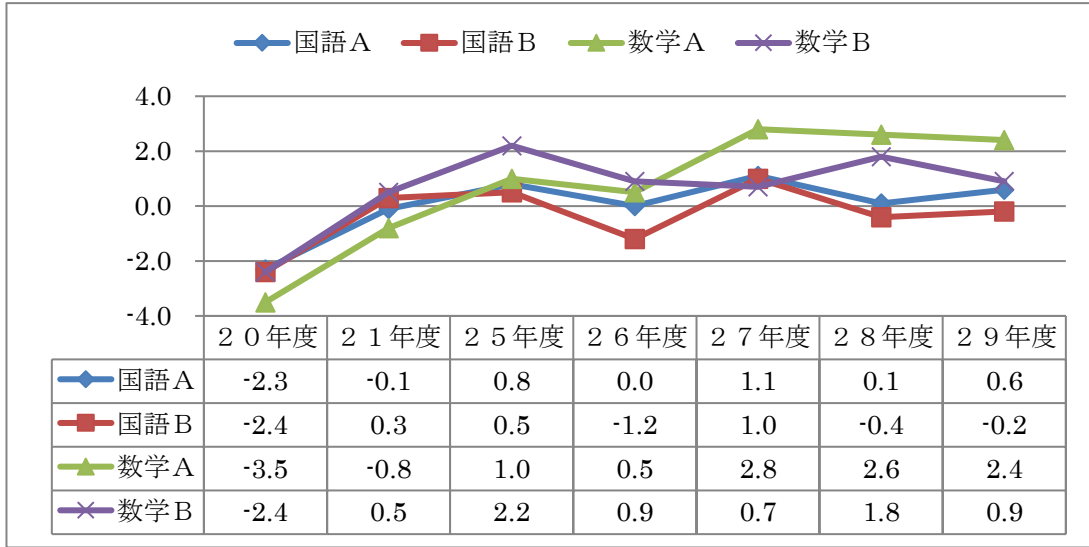
	国語A	国語B	数学A	数学B	合計	総合平均
伊丹市	78	72	67	49	266	66.5
全国	77.4	72.2	64.6	48.1	262.3	65.6
全国差	0.6	△0.2	2.4	0.9	3.7	0.9

(2) 平均正答率の推移 全国の平均正答率と伊丹市の平均正答率との差の推移

小学校



中学校



(3) 無解答率

小学校

	国語(3題)				算数(5題)					
	A	B 1-三	B 2-三	B 3-三	A	B 1-(3)	B 2-(1)	B 3-(2)	B 4-(1)	B 5-(2)
伊丹市		1.5	2.3	18.3		14.9	6.1	12.0	4.5	6.8
全国	記述なし	2.6	2.8	19.4	記述なし	14.9	6.4	12.7	4.8	8.7
全国差		1.1	0.5	1.1		0	0.3	0.7	0.3	1.9

中学校

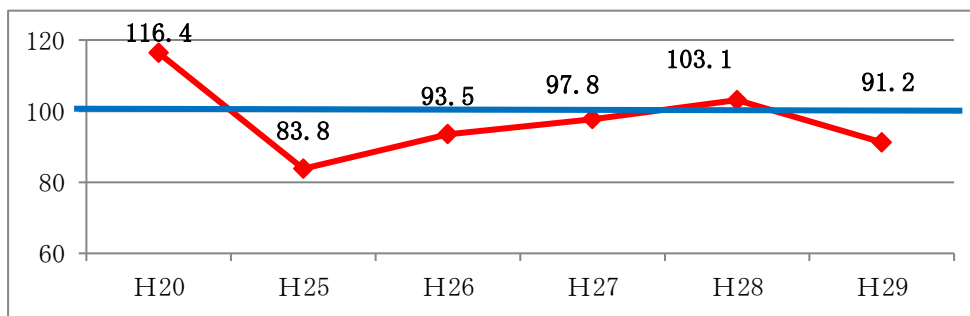
	国語(3題)				数学(7題)					
	A	B 1-三	B 2-三	B 3-三	A	B 1-(2)	B 2-(3)	B 3-(2)	B 4-(1)	B 5-(3)
伊丹市		11.9	4.1	5.3		12.6	16.8	25.7	14.6	24.0
全国	記述なし	14.3	5.8	7.4	記述なし	17.7	23.4	33.4	20.3	31.2
全国差		2.4	1.7	2.1		5.1	6.6	7.7	5.7	7.2

(4) 無解答率の推移

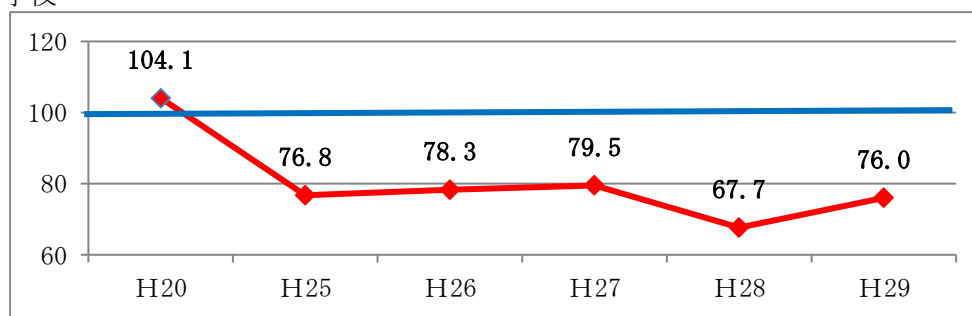
全国の無解答率を100とした場合の無解答率の推移

(国語と算数・数学の合計平均、100を下回るほうがよい)

小学校



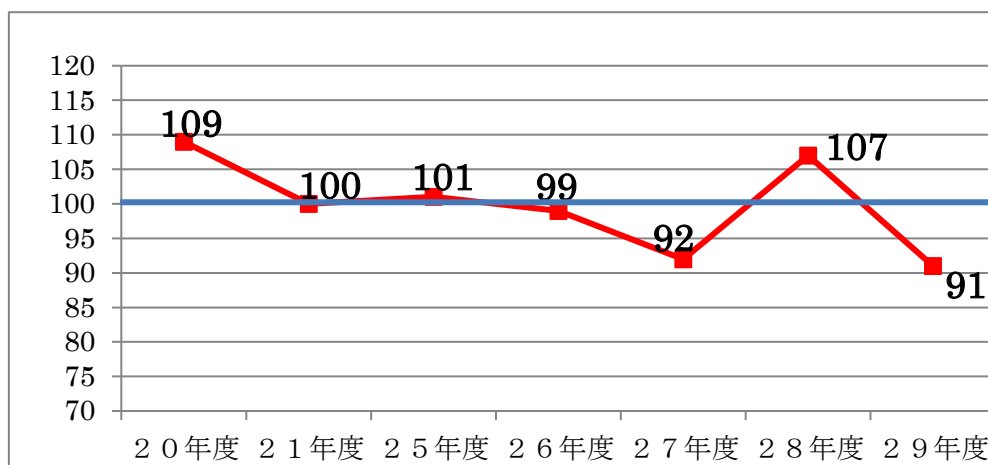
中学校



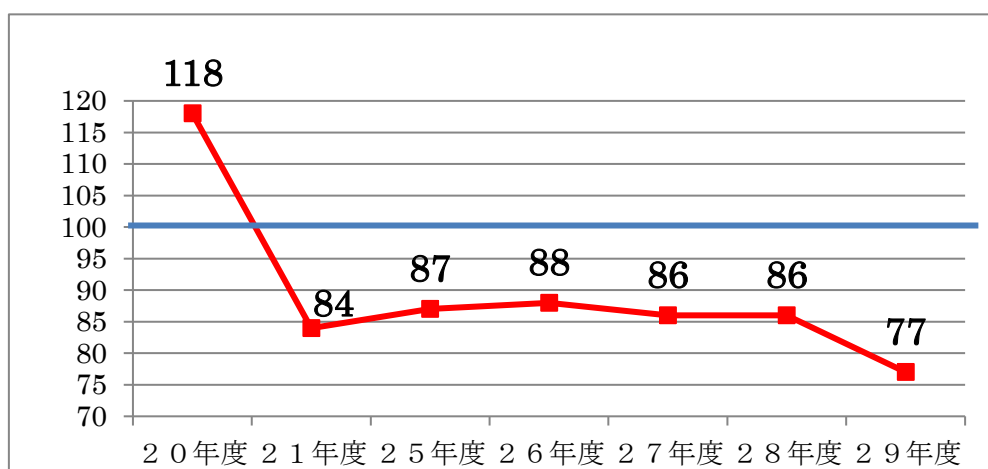
(5) 正答数20%以下の割合の推移

小学校国語A・B、算数A・B、中学校国語A・B、数学A・Bそれぞれの問題の正答数が20%以下の数値を合計し、その児童生徒の比率を全国を100として算出した数値（100を下回る方が良い）

小学校



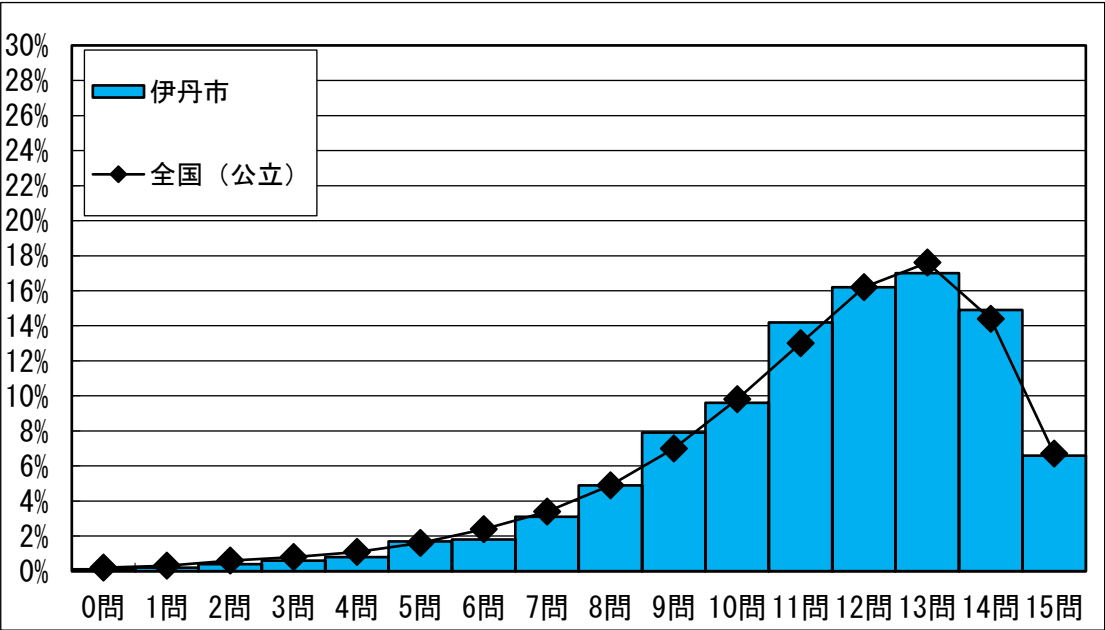
中学校



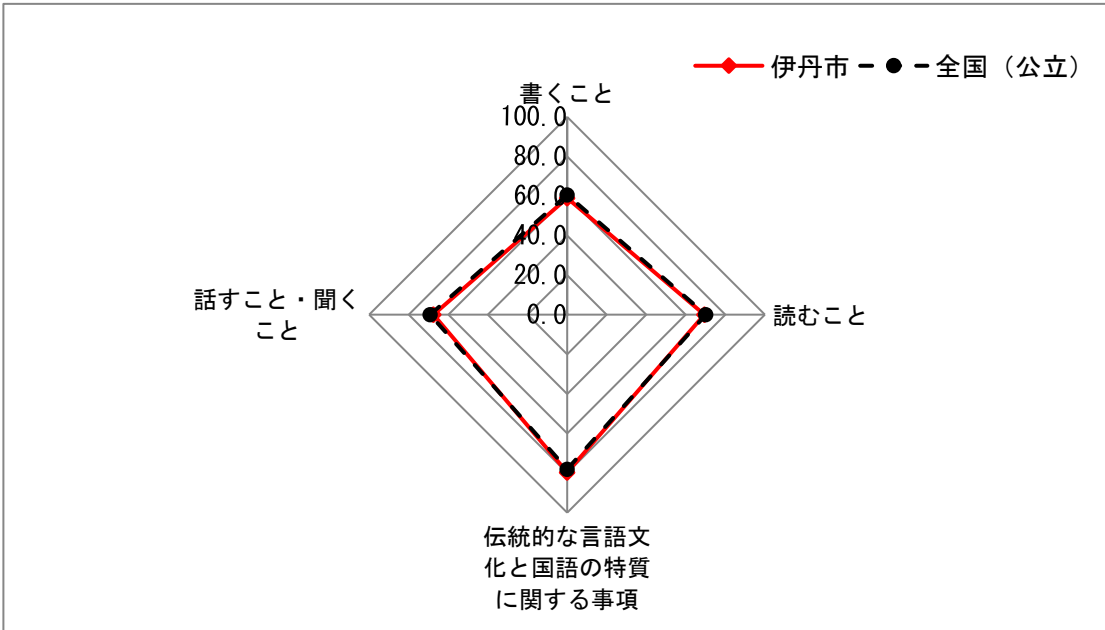
(5) 教科別調査結果の詳細

小学校国語 A (知識に関する問題)

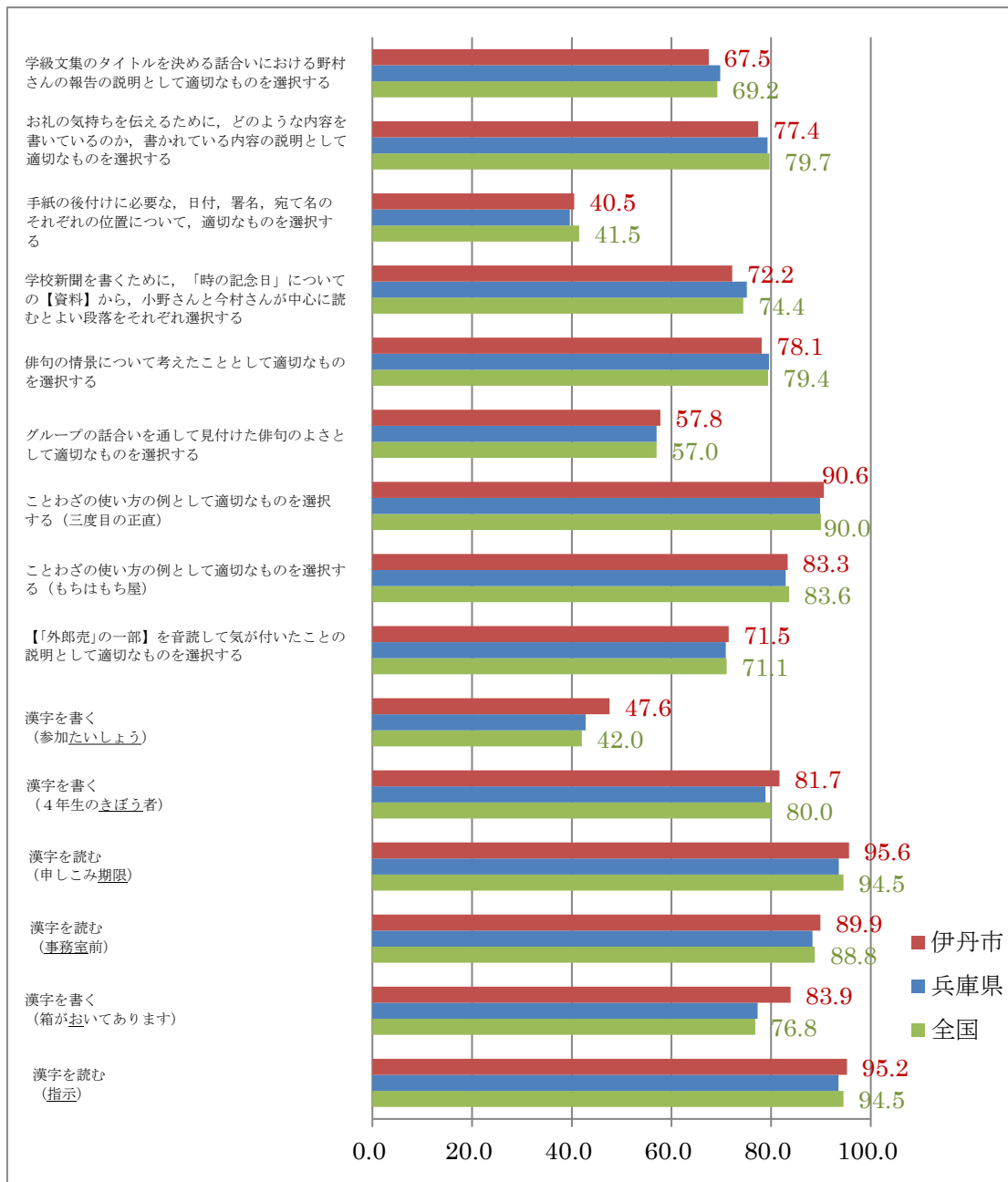
1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況

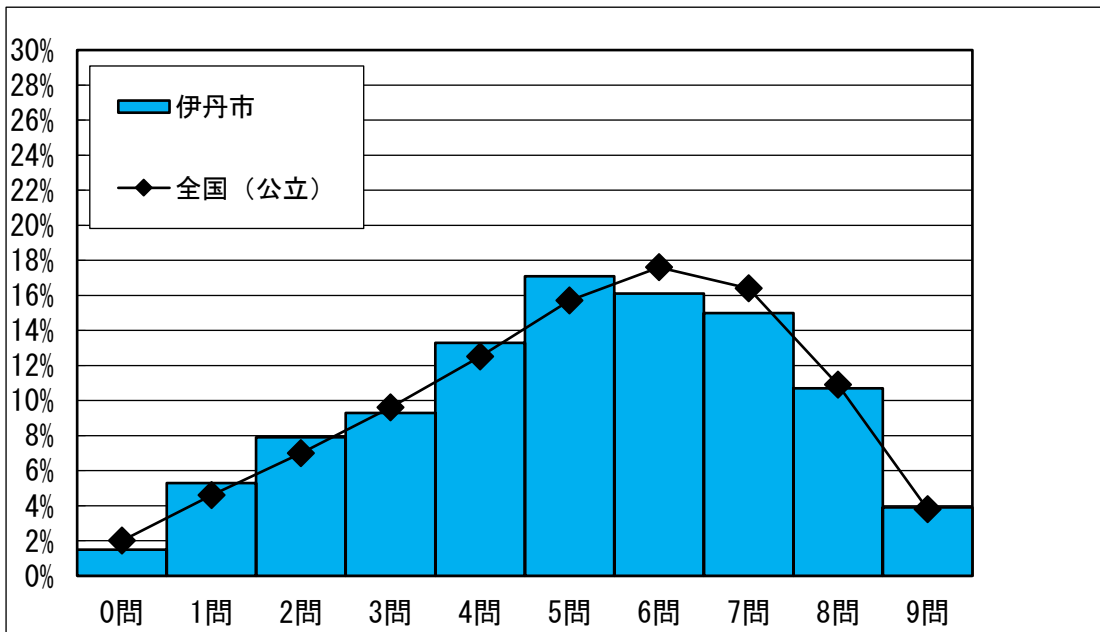


(%)

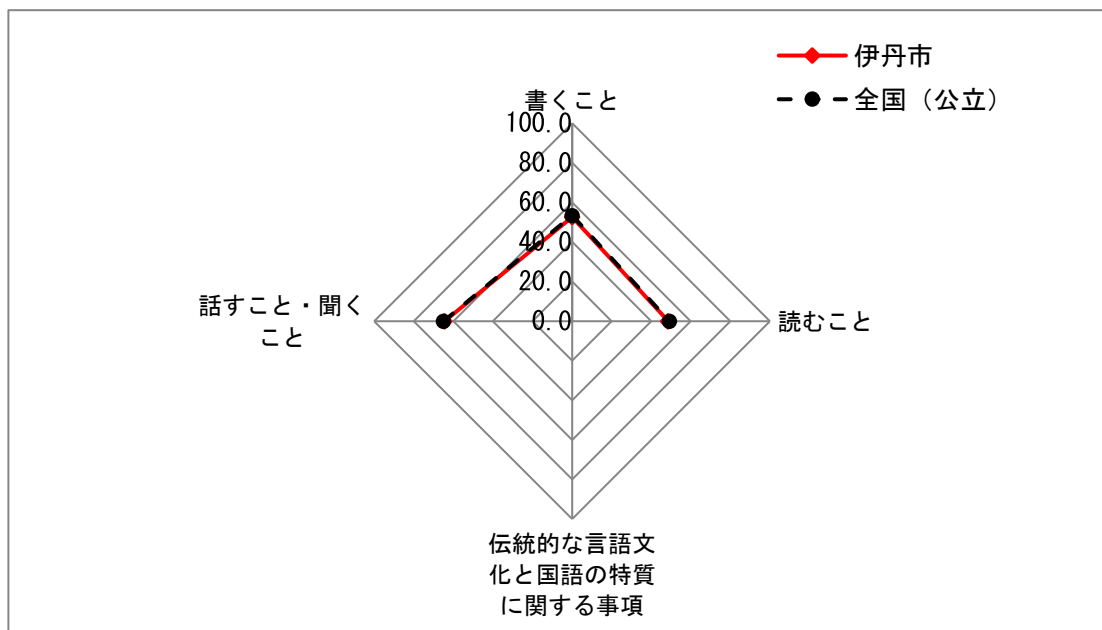
- 漢字の読み書きは概ねできている
- ことわざの意味を理解して、自己表現に用いることができる
- 相手や目的を明確にしなが、書く必要のある事柄を選んだり、構成したりすることができる
- 基本的な形式を理解して、手紙を書くことに課題がある
- 俳句の描写を捉え、優れた叙述について考えをまとめることに課題がある

小学校国語B (活用に関する問題)

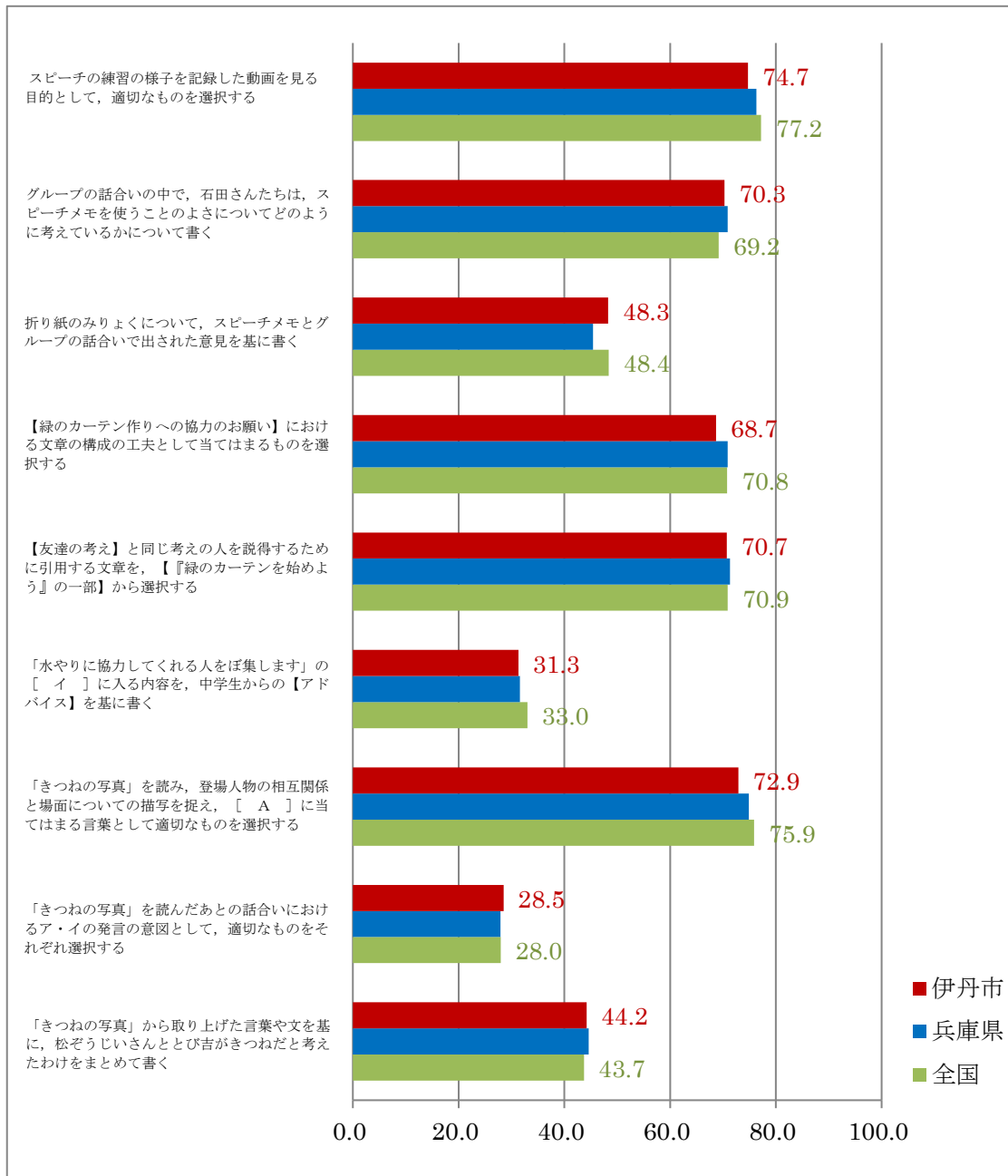
1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート



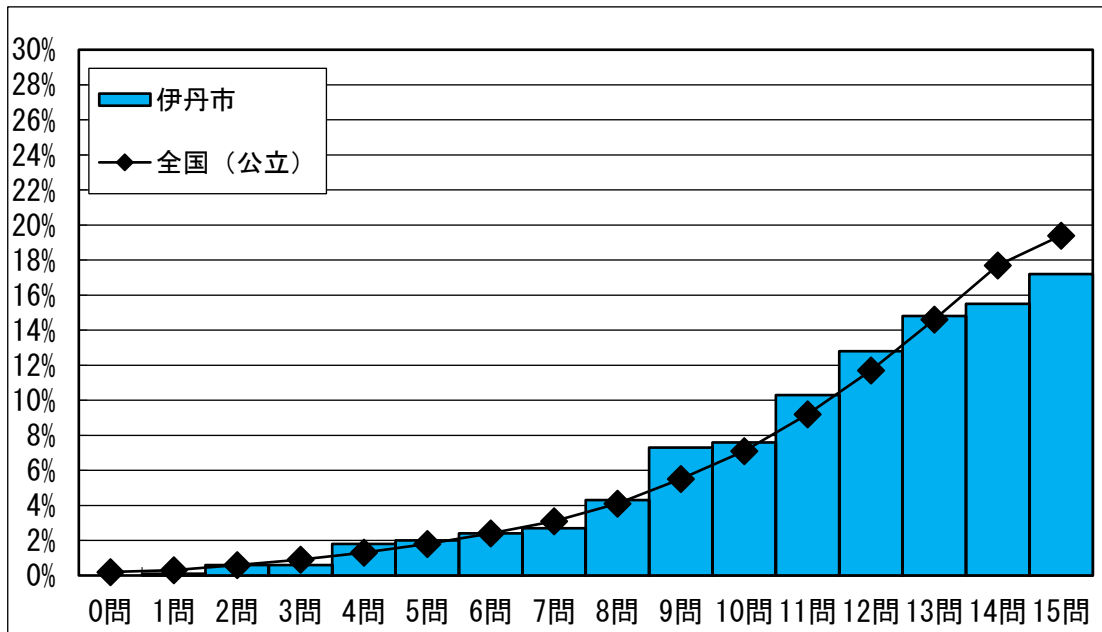
3 設問別状況



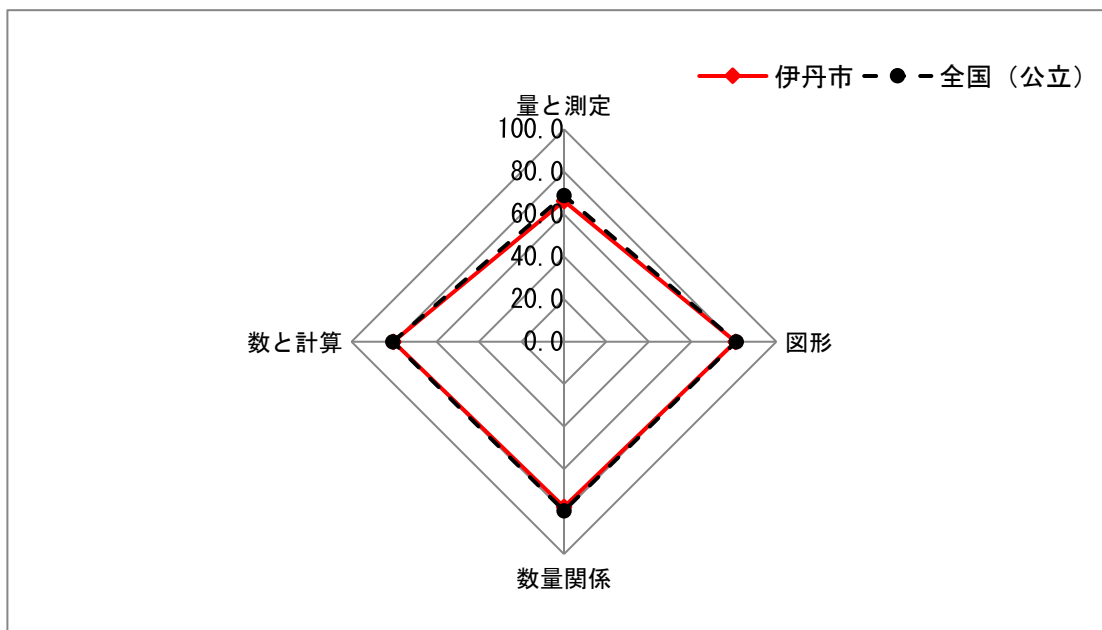
- 目的や意図に応じ、自分の伝えたいことについての的確に話すことができる (%)
- 登場人物の相互関連から、人物像やその役割、心情を捉えながら読むことができる
- 場面の展開に沿って読みながら、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることに課題がある
- 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある
- 話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことに課題がある

小学校算数A (知識に関する問題)

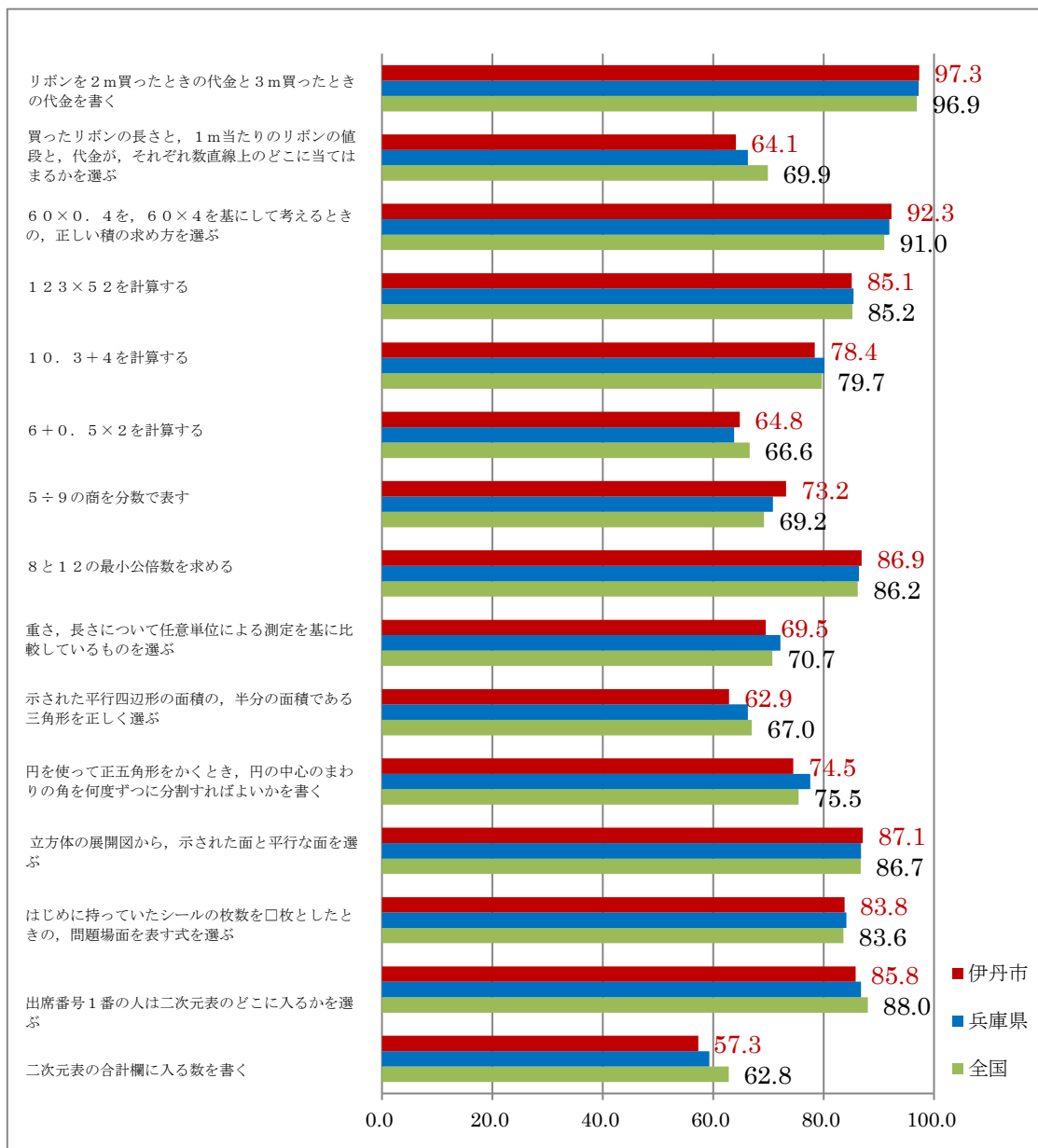
1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況

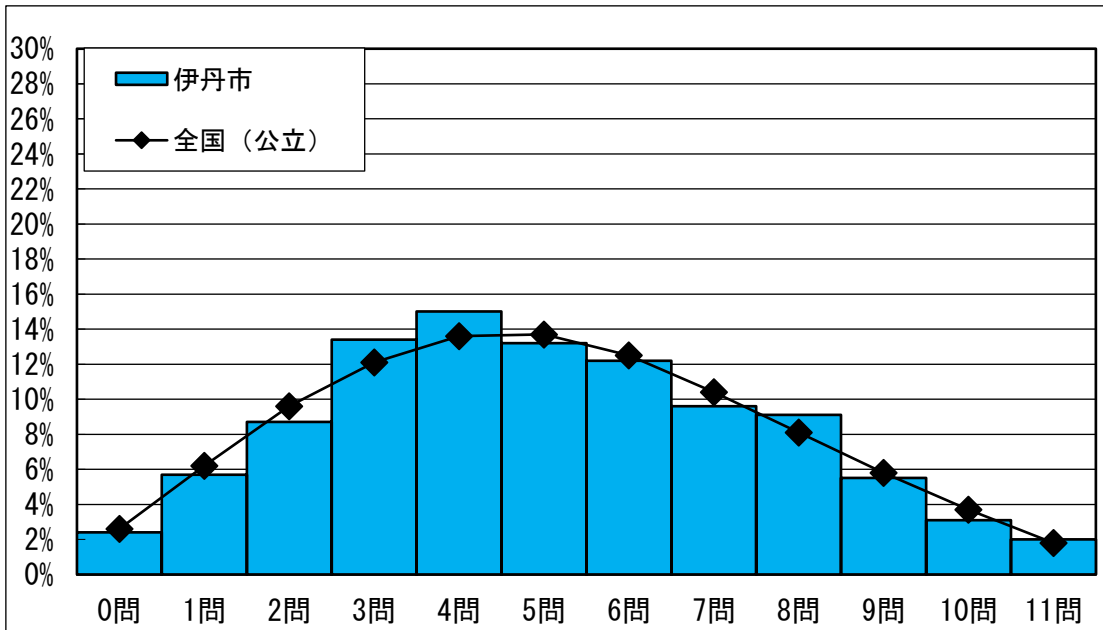


(%)

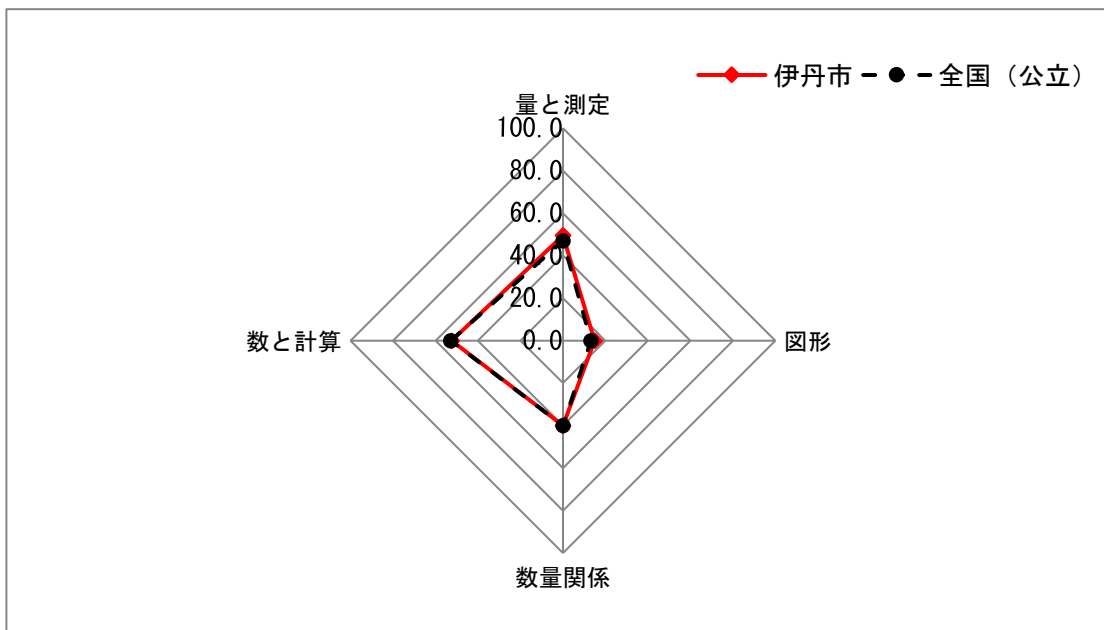
- 具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している
- $(整数) \times (小数)$ の計算において、乗法を整数に置き換えて考えるときに用いる、乗法の性質を理解している
- 立方体の面と面の位置関係を理解している
- 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことに課題がある
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算に課題がある
- 資料から二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題がある

小学校算数B (活用に関する問題)

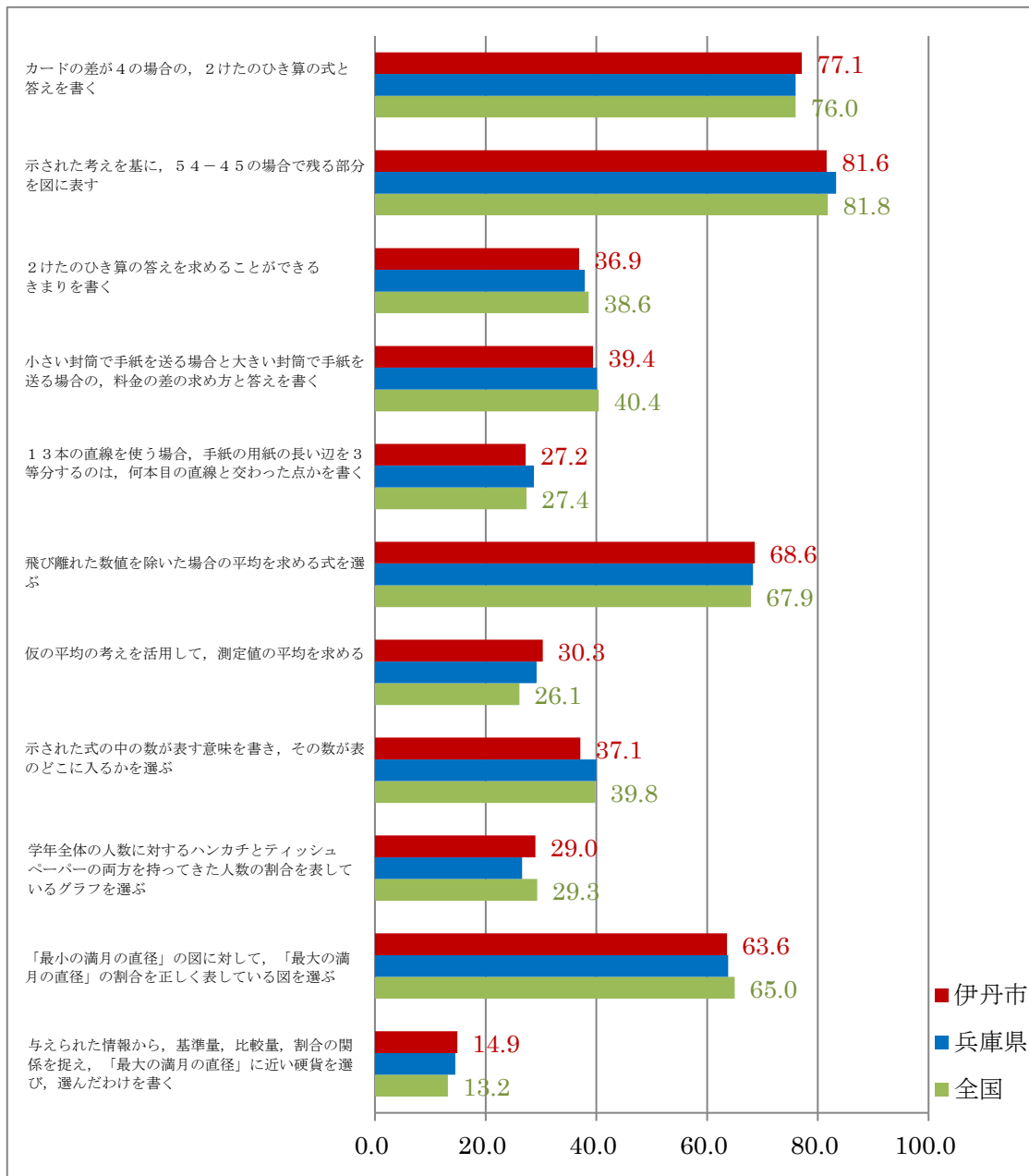
1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況

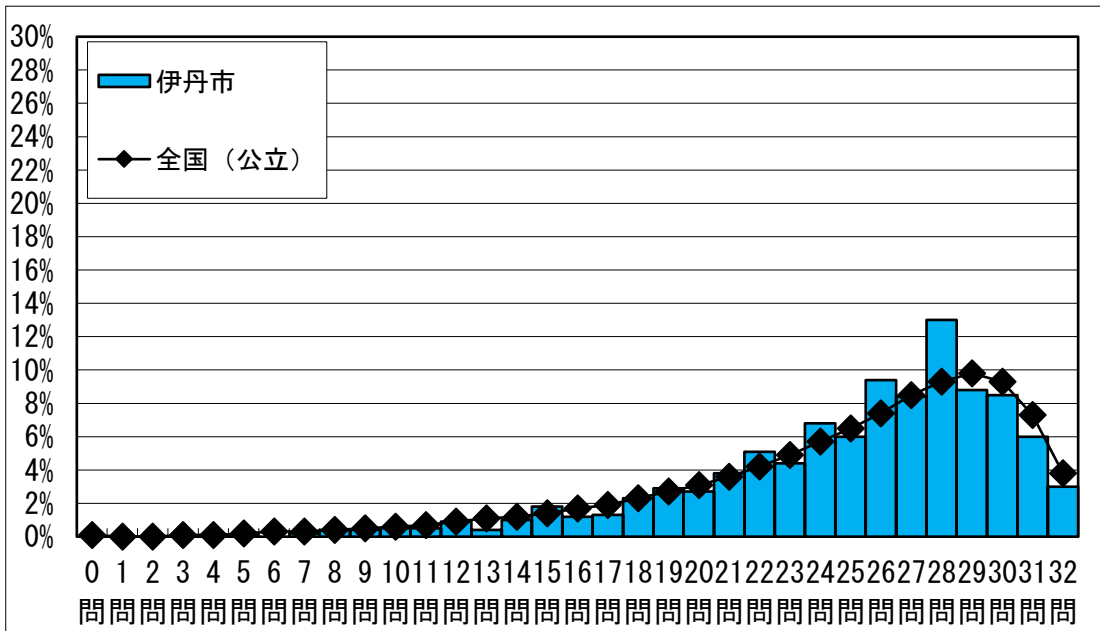


(%)

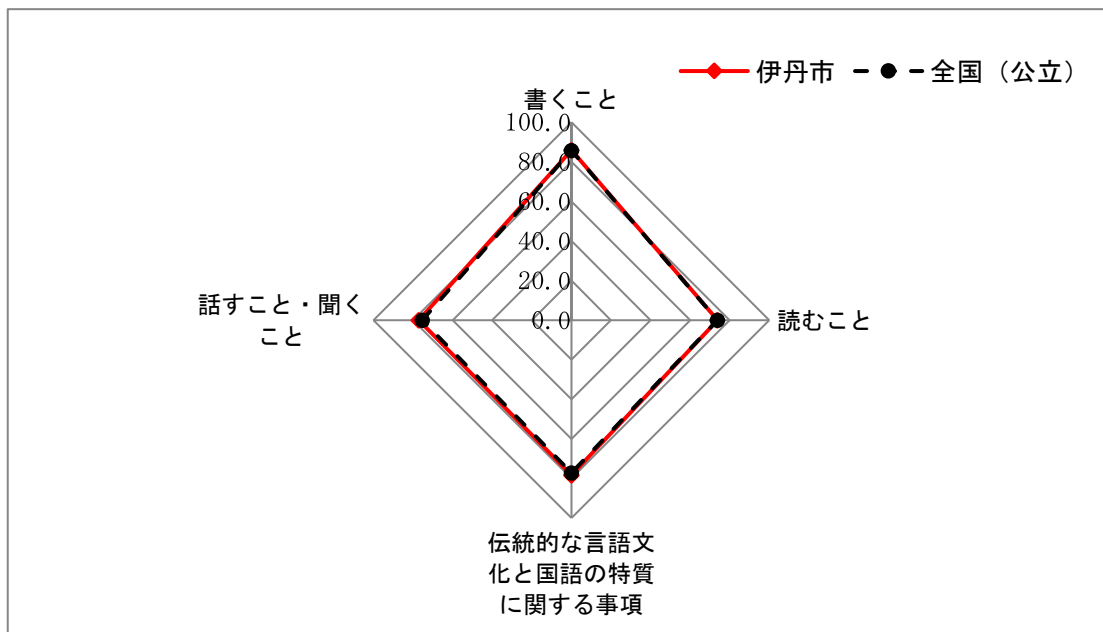
- 示された条件を基に、適切な式を立てることができている
- 示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができている
- 直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することに課題がある
- 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題がある
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある

中学校国語A (知識に関する問題)

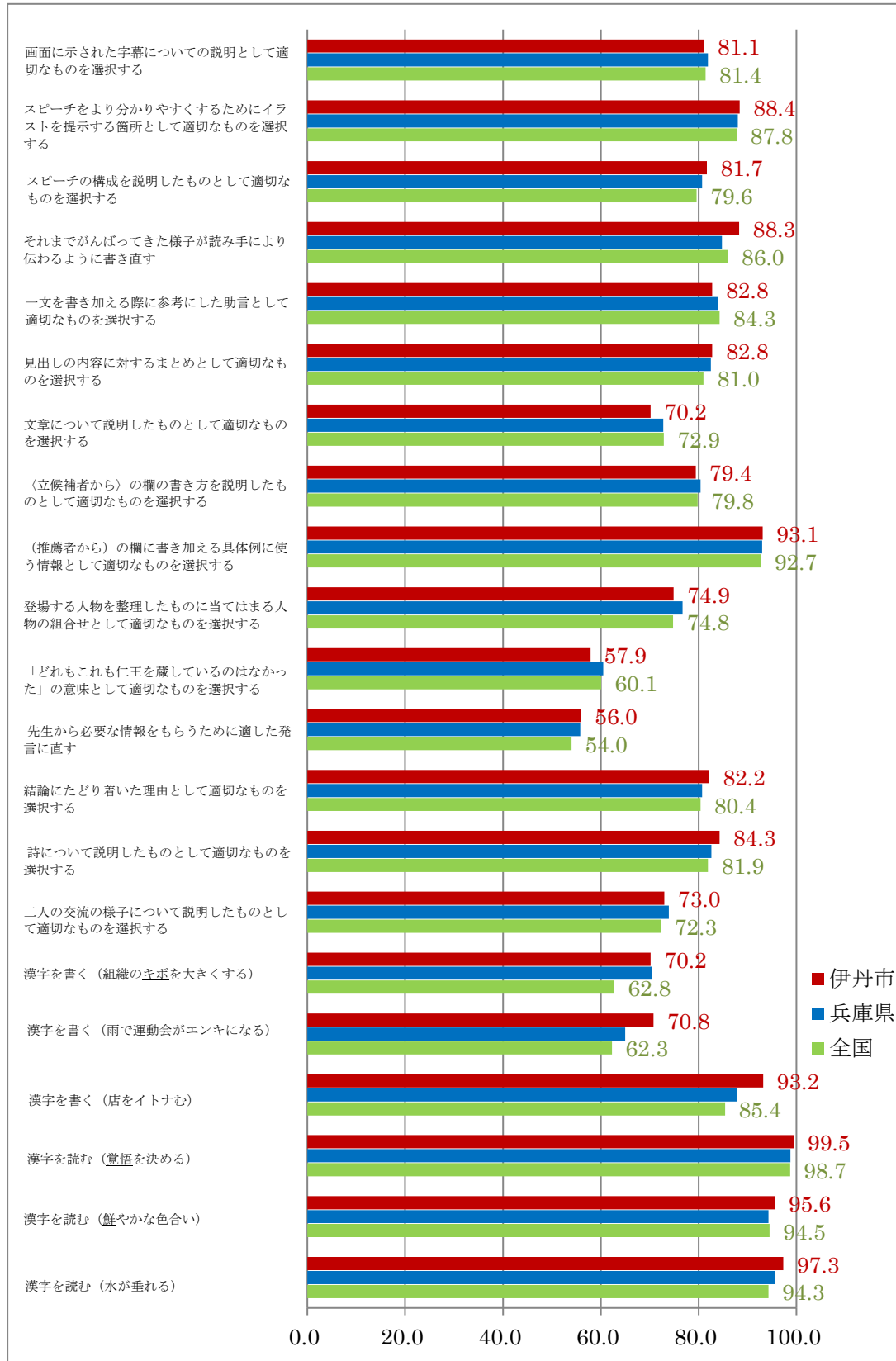
1 平均正答数



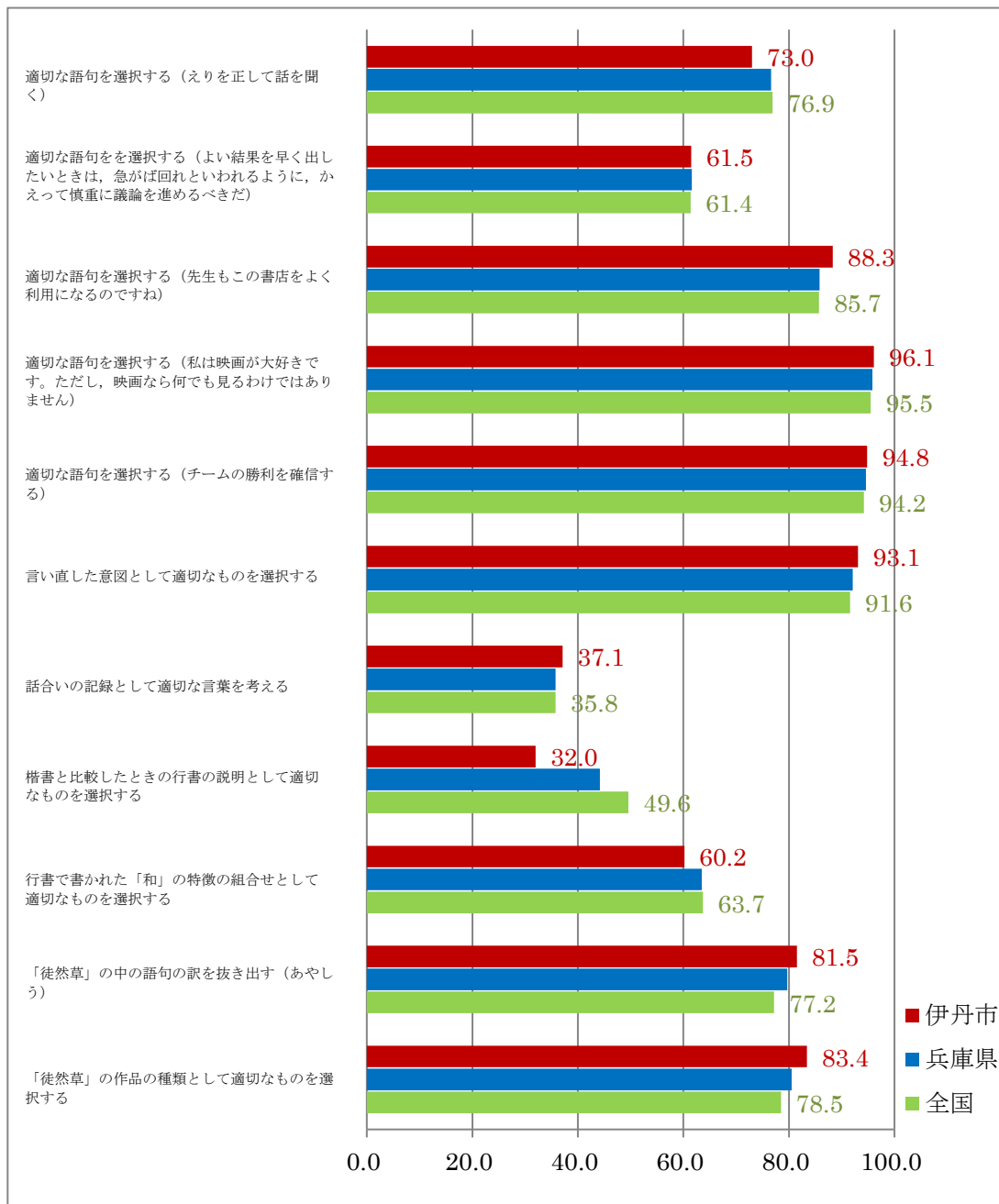
2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況



(%)

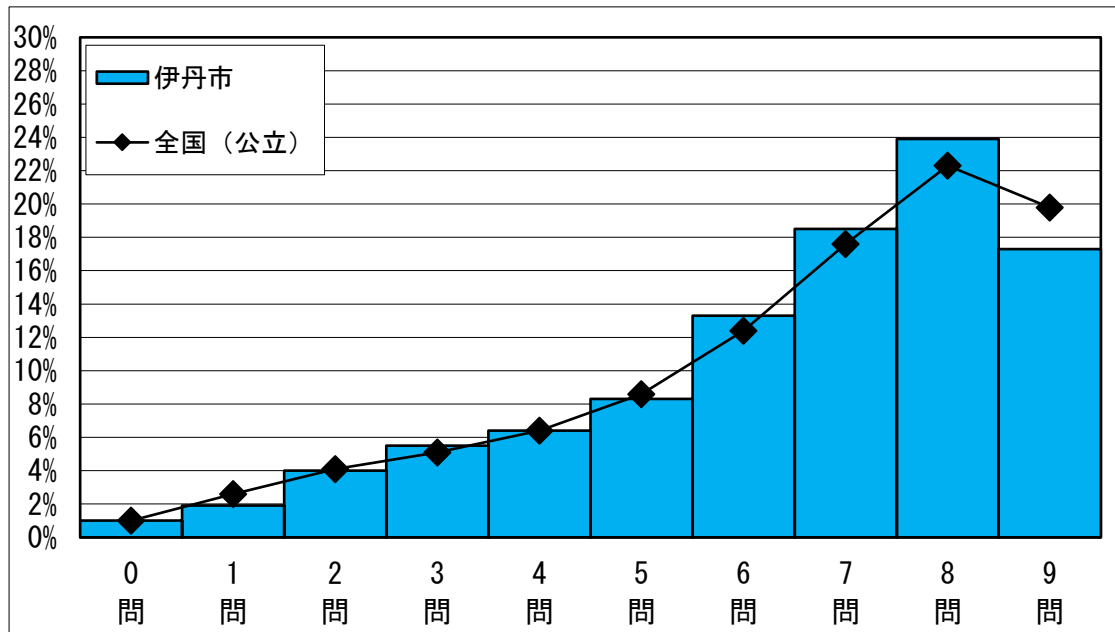


(%)

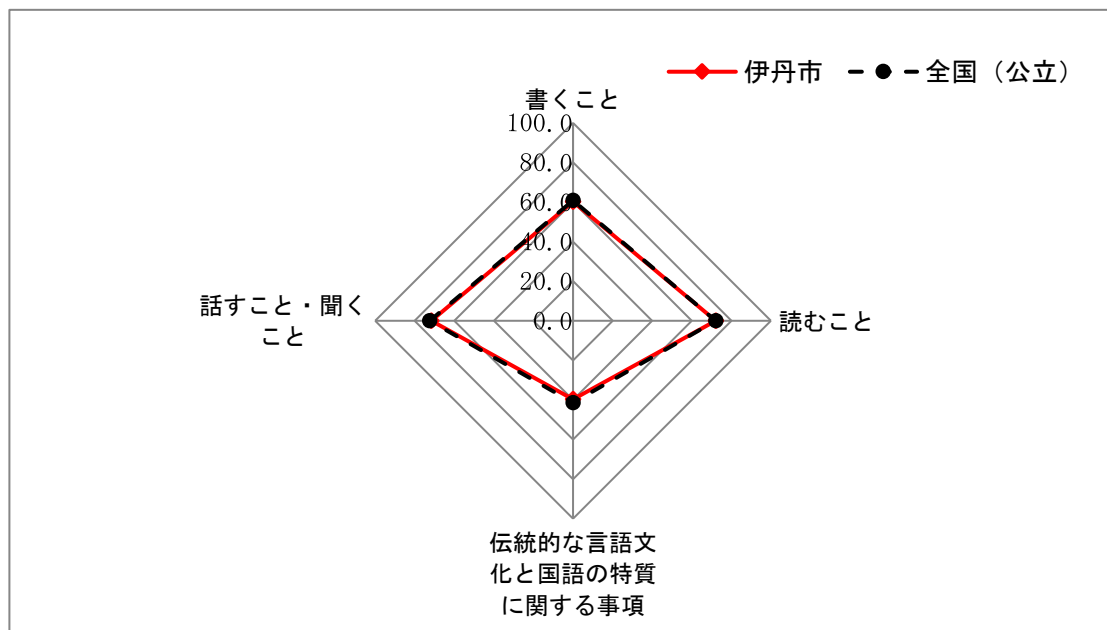
- 自分の考えを的確に伝え、聞き手の理解を深めるために、資料を効果的に活用して話すことができる
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことが概ねできる
- 書くための課題を決めて材料を集め、自分の考えをまとめることができる
- 楷書と行書の違いの理解に課題がある
- その場の状況に応じて使われる、事象や行為などを表す多様な語句の理解に課題がある
- 相手にわかりやすいように、適切な語句を選んで話すことに課題がある

中学校国語B (活用に関する問題)

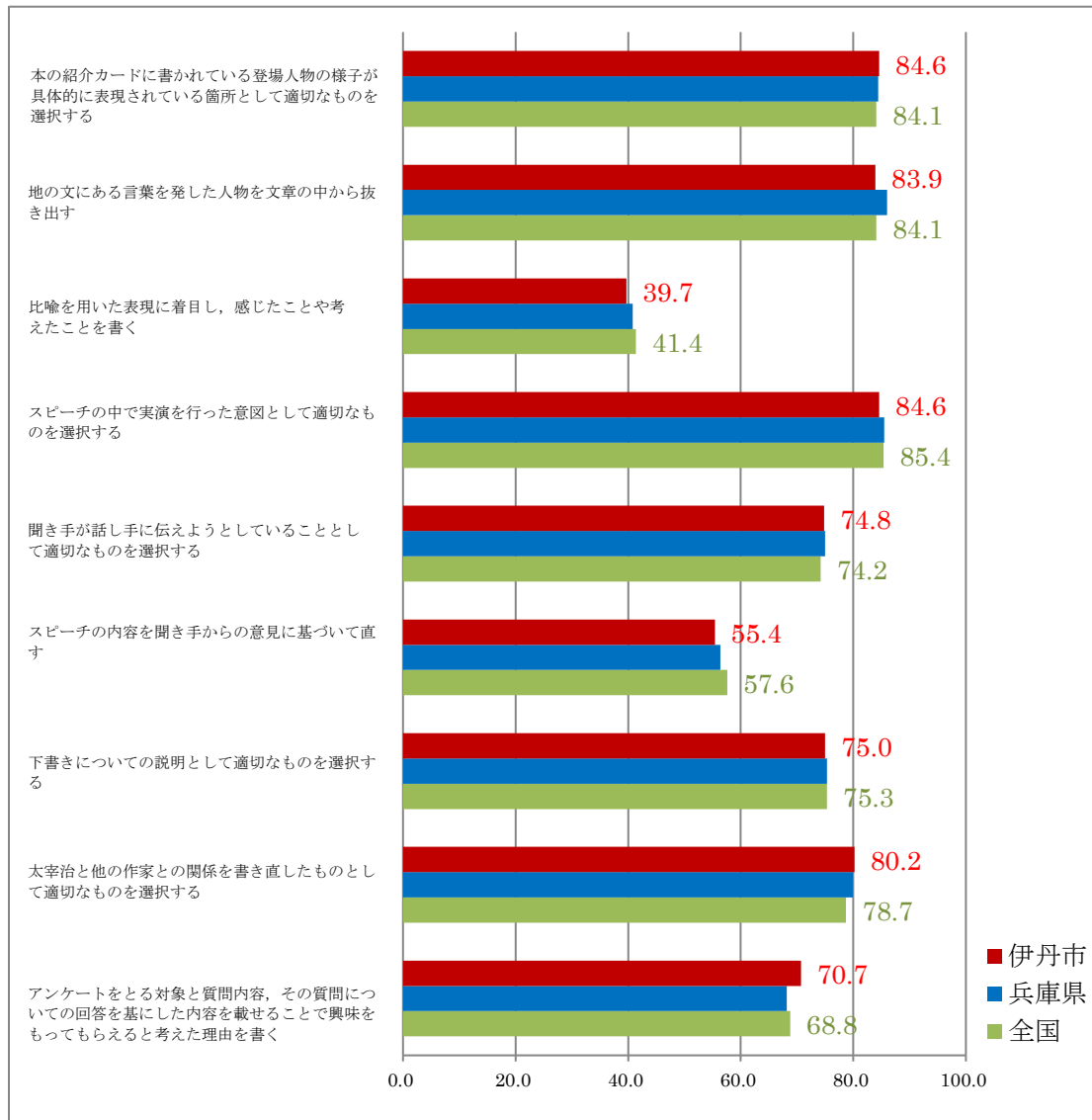
1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況

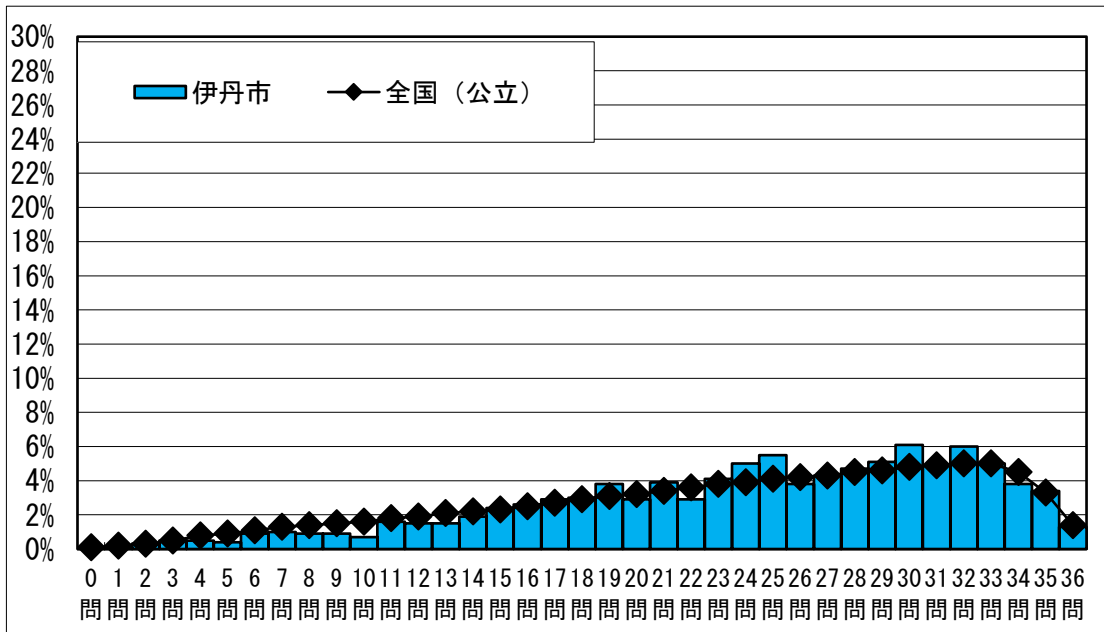


(%)

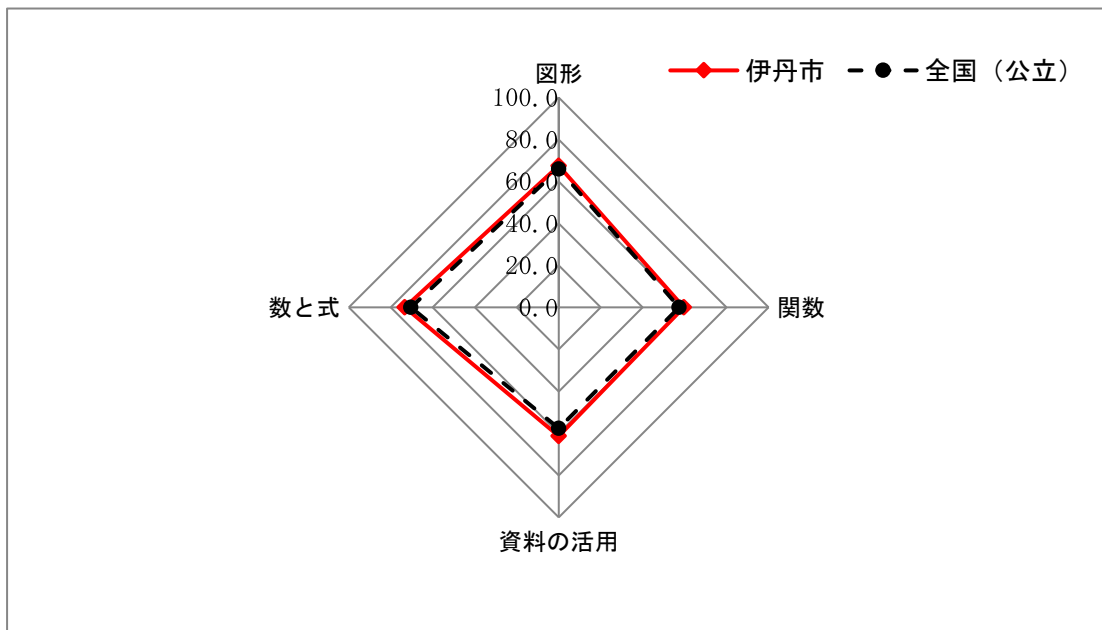
- 登場人物の言動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考え、内容を理解することができる
- 聞き手にわかりやすく伝わるよう、目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができる
- 資料から正確に情報を読み取り、適切に活用することができる
- 事実や事柄と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すことに課題が見られる
- 比喩や反復などの表現技法を捉え、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる

中学校数学A (知識に関する問題)

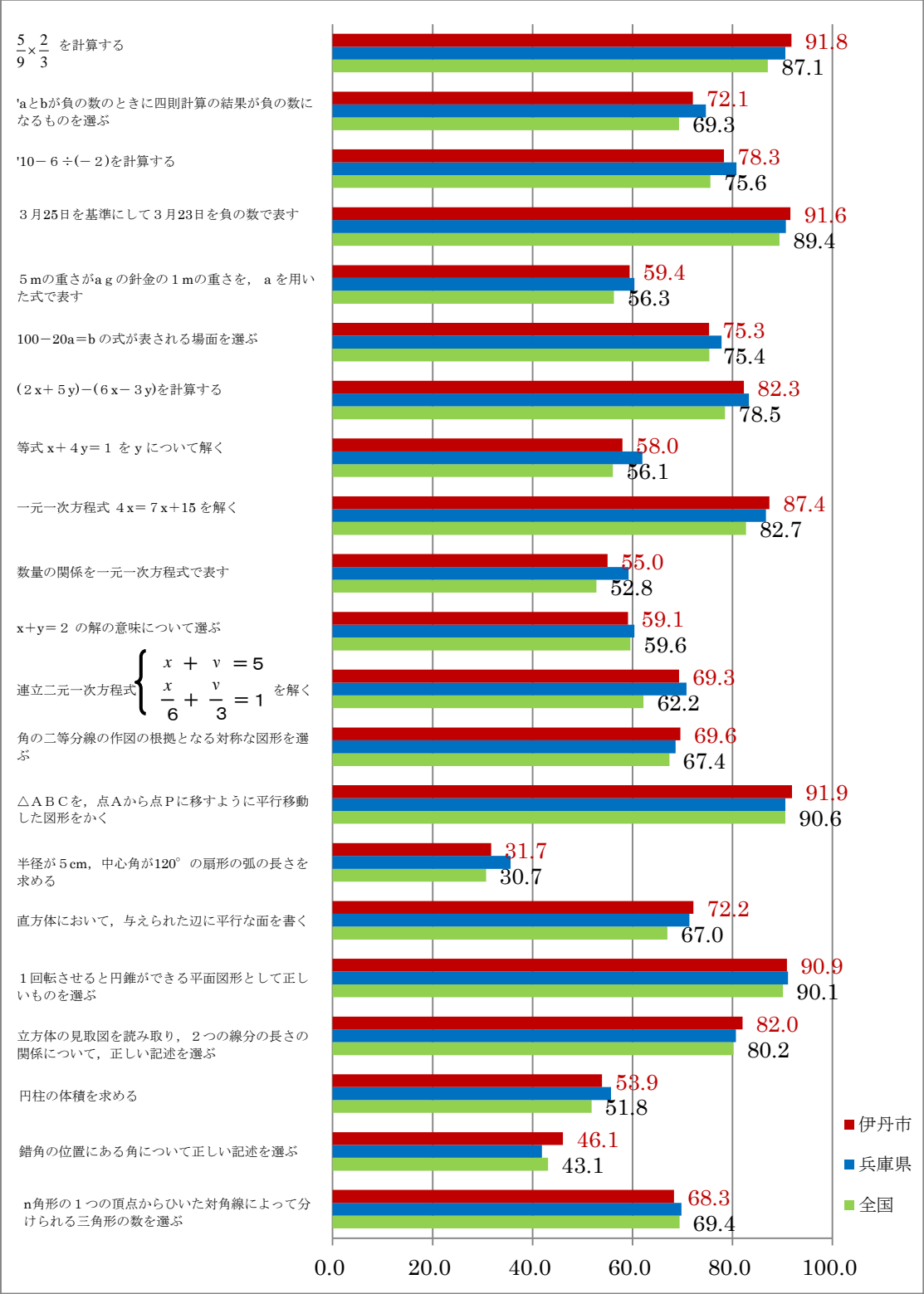
1 平均正答数



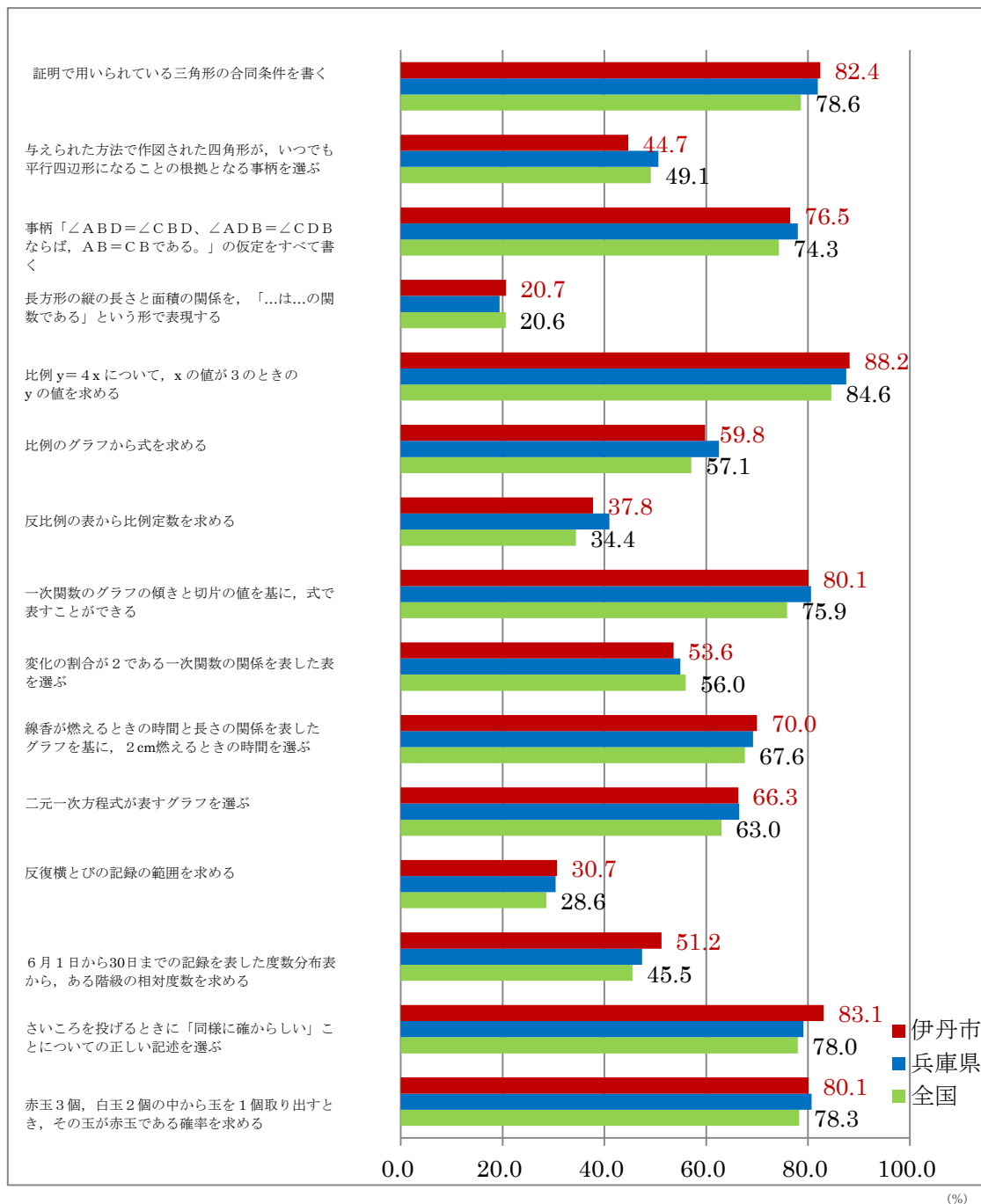
2 分野別レーダーチャート



3 設問別状況



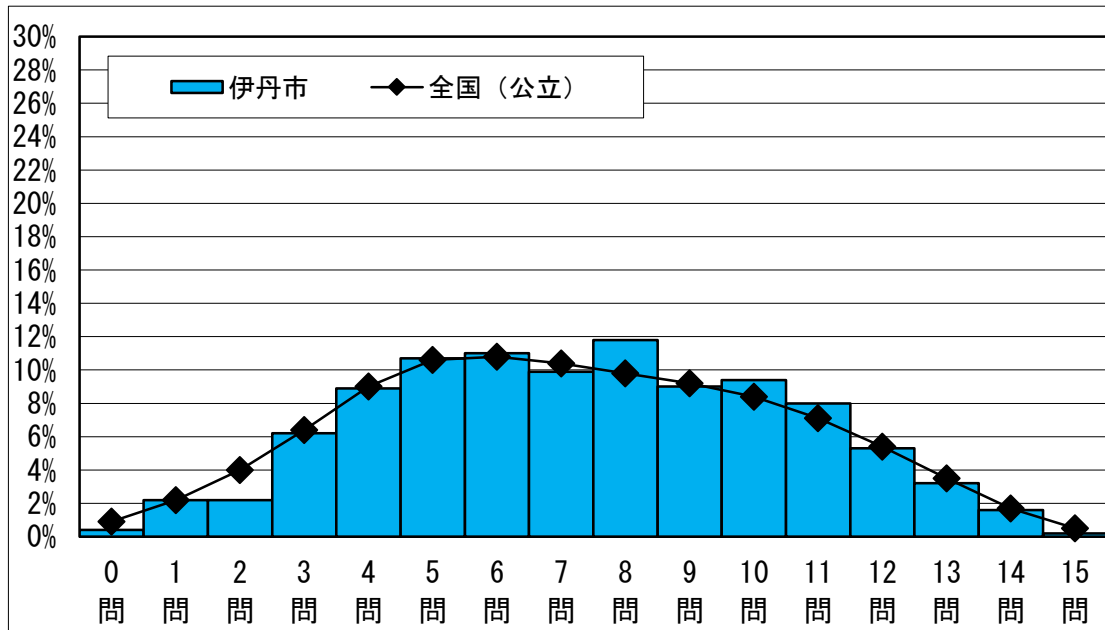
(%)



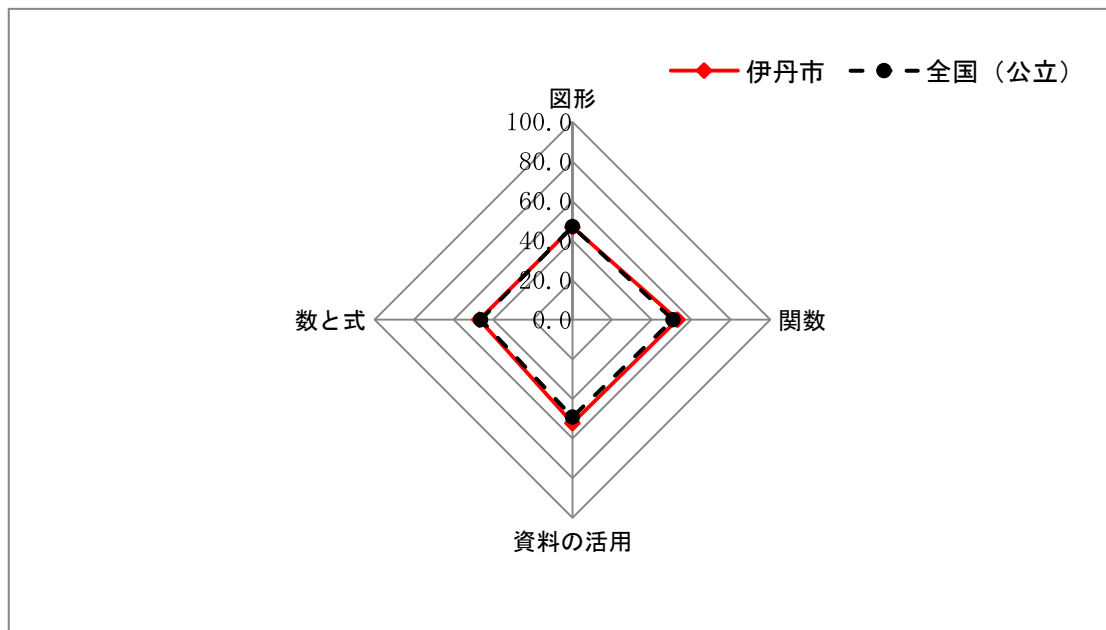
- 四角形の構成について理解している
- 1次関数の式から変化の割合を求めることができる
- 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる
- 測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解できる
- 具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることに課題がある
- 対称移動した図形をかくことに課題がある
- 一次関数のグラフの特徴について、表と関連づけることに課題がある

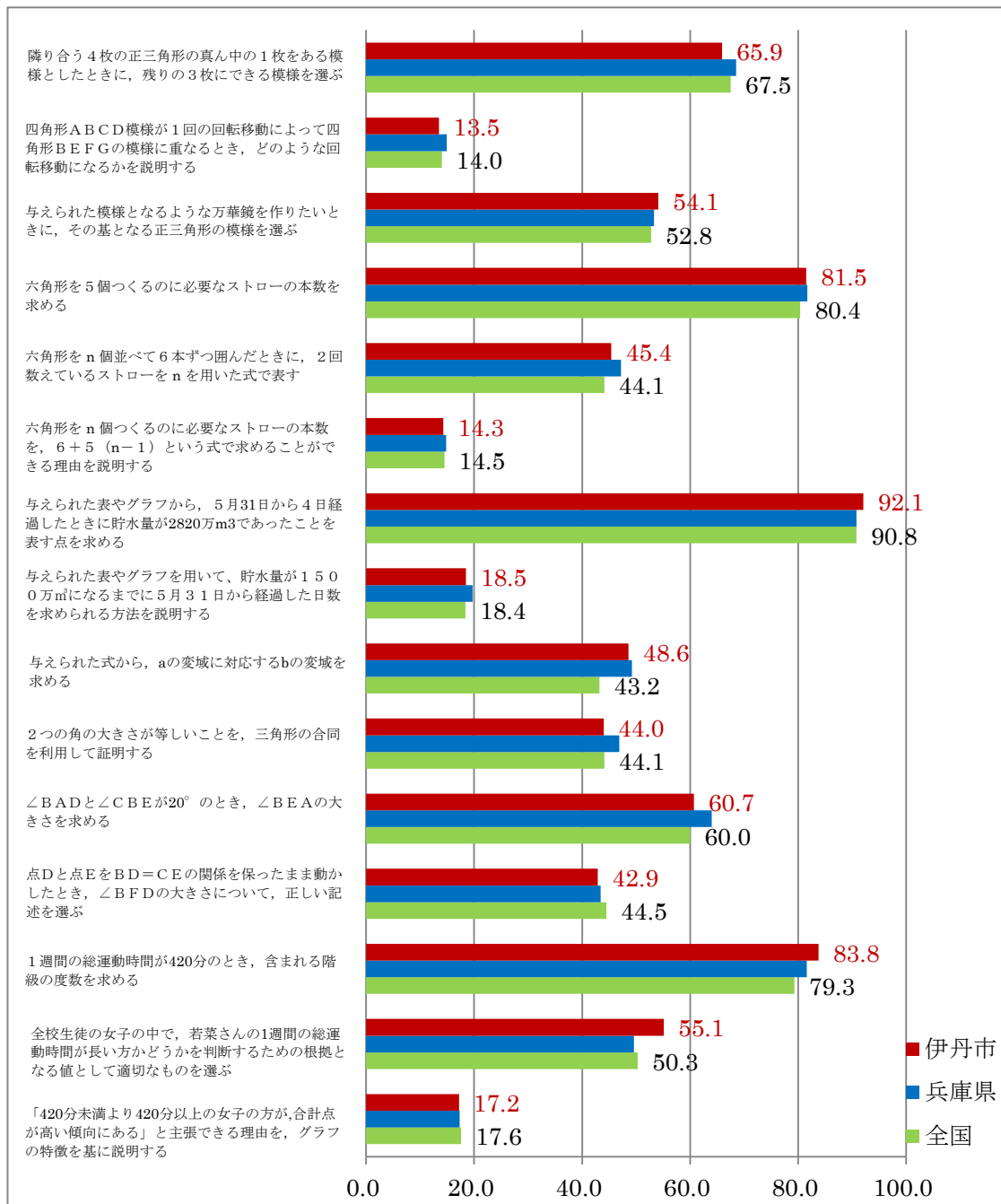
中学校数学B (活用に関する問題)

1 平均正答数



2 分野別レーダーチャート





(%)

- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
- 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することに課題がある
- 条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、値を求めることに課題がある

3

伊丹市学習到達度調査結果

小学校6年生・中学校3年生を対象に、平成29年4月21日（金）に伊丹市学習到達度調査を実施しましたので、併せて報告をいたします。

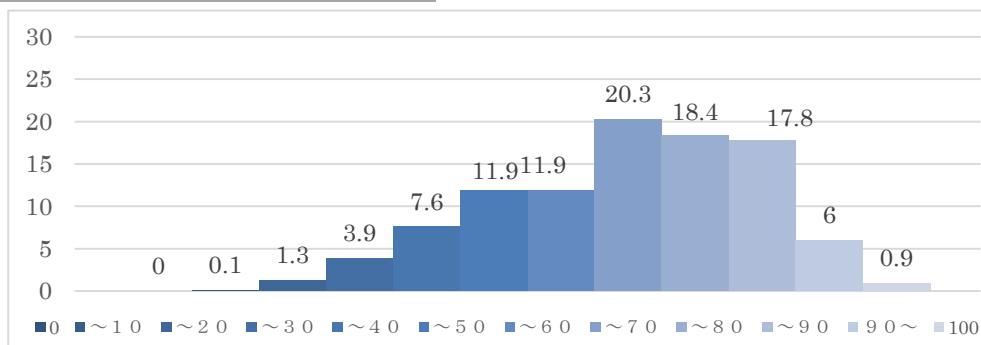
小学校社会

伊丹市	目標値	目標値との差
64.7	58.5	6.2

目標値

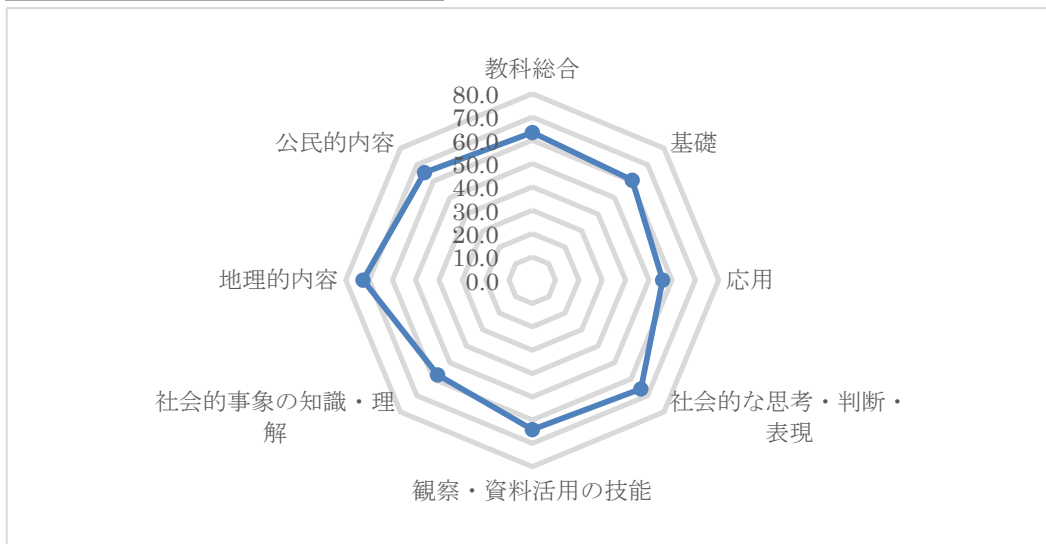
ベネッセが学習指導要領に基づいた問題、難易度等を検討して作成した調査について独自のサンプリング調査等を行い、児童生徒の正答率の目標として設定した数値

1 平均正答率



2 分野別レーダーチャート

%

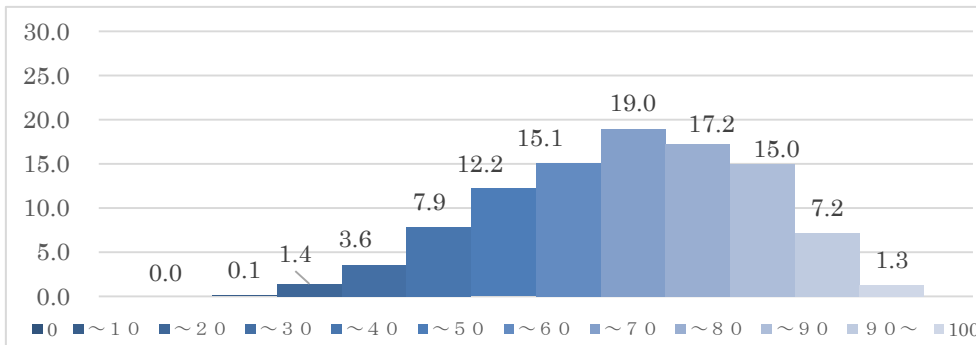


- 工業における技術開発について、生産者の願いを資料から読み取ることができている
- 日本の食料生産について、輸入量と消費量の関係をグラフから読み取り特徴を捉えることができている
- 森林の役割について、防災等の役割があることを理解している
- 日本列島について、主な4島の名称、周辺国等、基本的な知識・理解に課題がある
- 地産地消の取り組みについて、語句や内容の理解に課題がある
- 通信・交通手段の変化について、特徴や目的を資料から読み取ることに課題がある

小学校理科

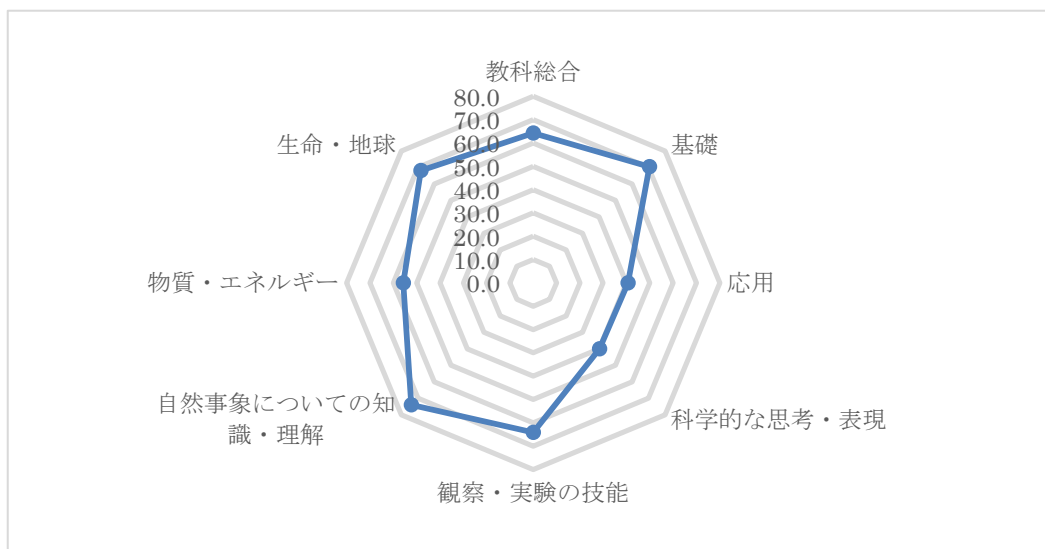
伊丹市	目標値	目標値との差
64.3	52.3	12.0

1 平均正答率



%

2 分野別レーダーチャート

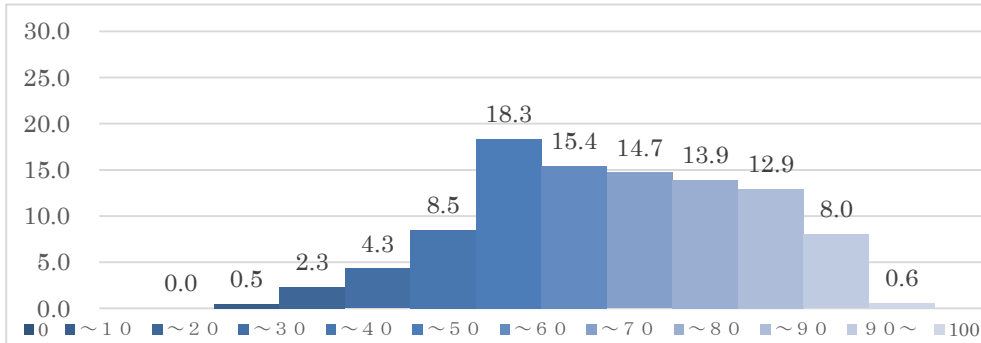


- 電流の向きと電磁石の極の変化に関する理解が定着している
- 花のつくりについて理解し、実のでき方について、正しく予想することができる
- 流水の働きについて理解し、その後の土地の様子について予測することができる
- 植物の成長について、いくつかの条件から考察することに課題がある
- 実験の結果をもとに、比較したい項目を選ぶことに課題がある。
- グラフをもとに考察を記述することに課題がある

中学校社会

伊丹市	目標値	目標値との差
60.8	49.4	11.4

1 平均正答率



2 分野別レーダーチャート

%

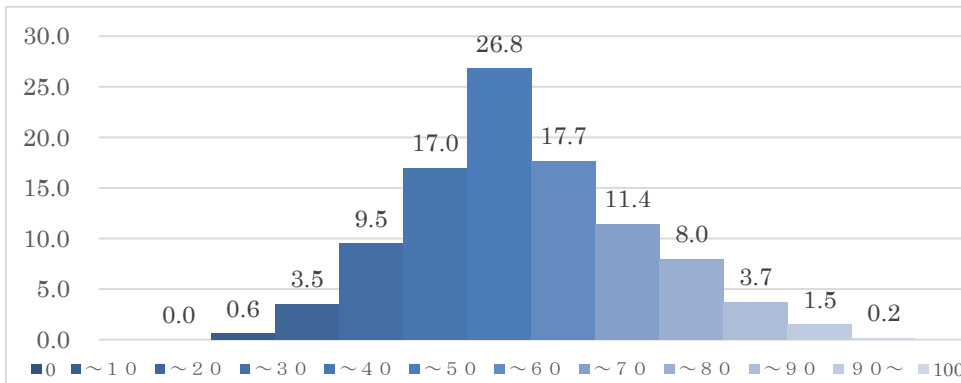


- 世界地図から地名や地形の特色を読み取ることができている
- 日本の諸地域について、地域の人々の生活や産業の特色を資料から読み取ることができている
- 江戸時代の農村の様子について、理解できている
- 自然環境の特色を生かした土地利用について、知識や理解をもとに判断することに課題がある
- 中部地方の3つの地域区分とその名称等、基本事項の確実な理解に課題がある
- 江戸時代に行われた政治改革について、資料を読み取り、内容と時期を判断することに課題がある

中学校理科

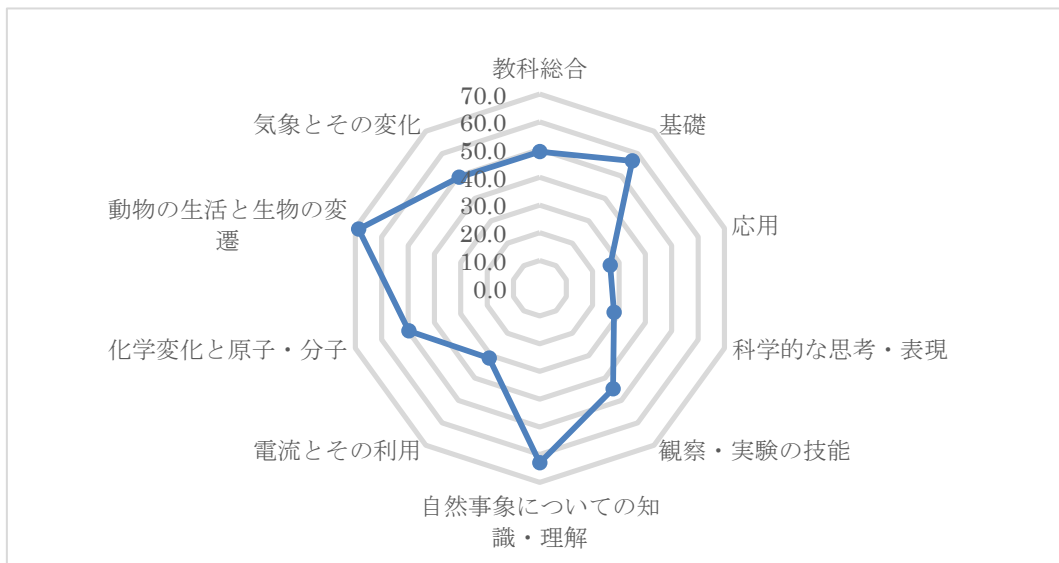
伊丹市	目標値	目標値との差
49.2	46.7	2.5

1 平均正答率



%

2 分野別レーダーチャート

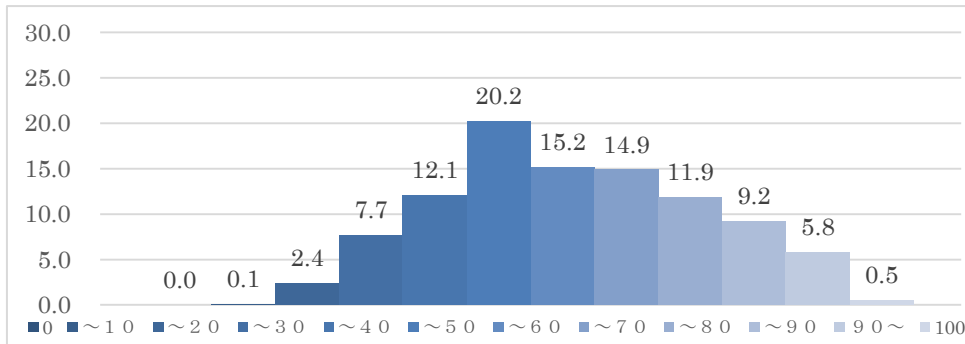


- 専門用語や、天気図の記号名等の基礎的な知識が定着している
- 実験器具の適切な使い方について、理解が定着している
- 日常の気象の変化について理解し、水蒸気量や露点に関する実験において考察することができている
- 消化器官のはたらきについての理解に課題がある
- 実験の結果をもとに、物質の質量を求めることに課題がある
- 物体の変化や運動について、決められた用語を用いて説明することに課題がある

中学校英語

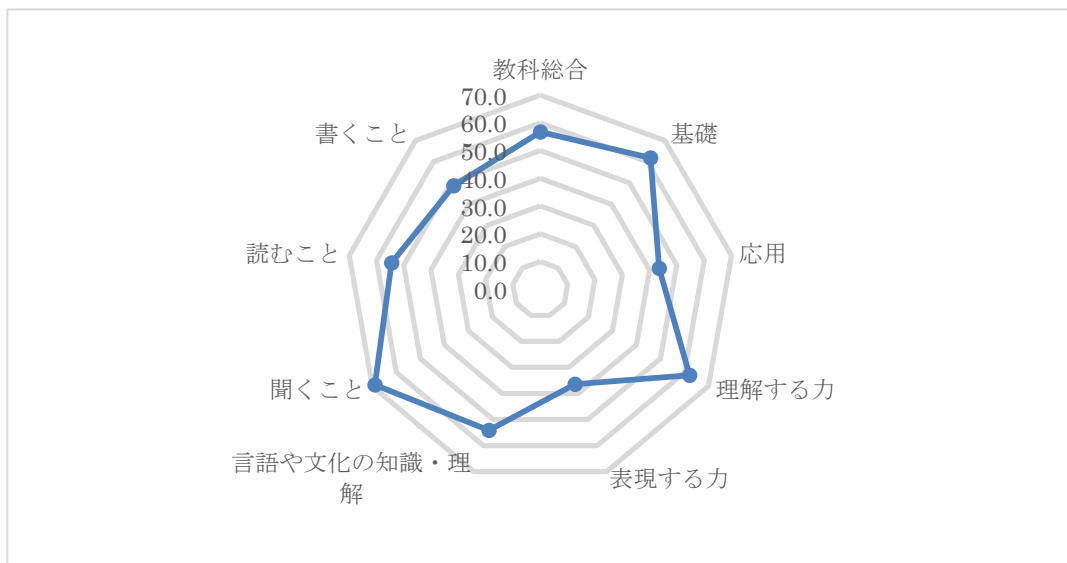
伊丹市	目標値	目標値との差
56.7	46.5	10.2

1 平均正答率



%

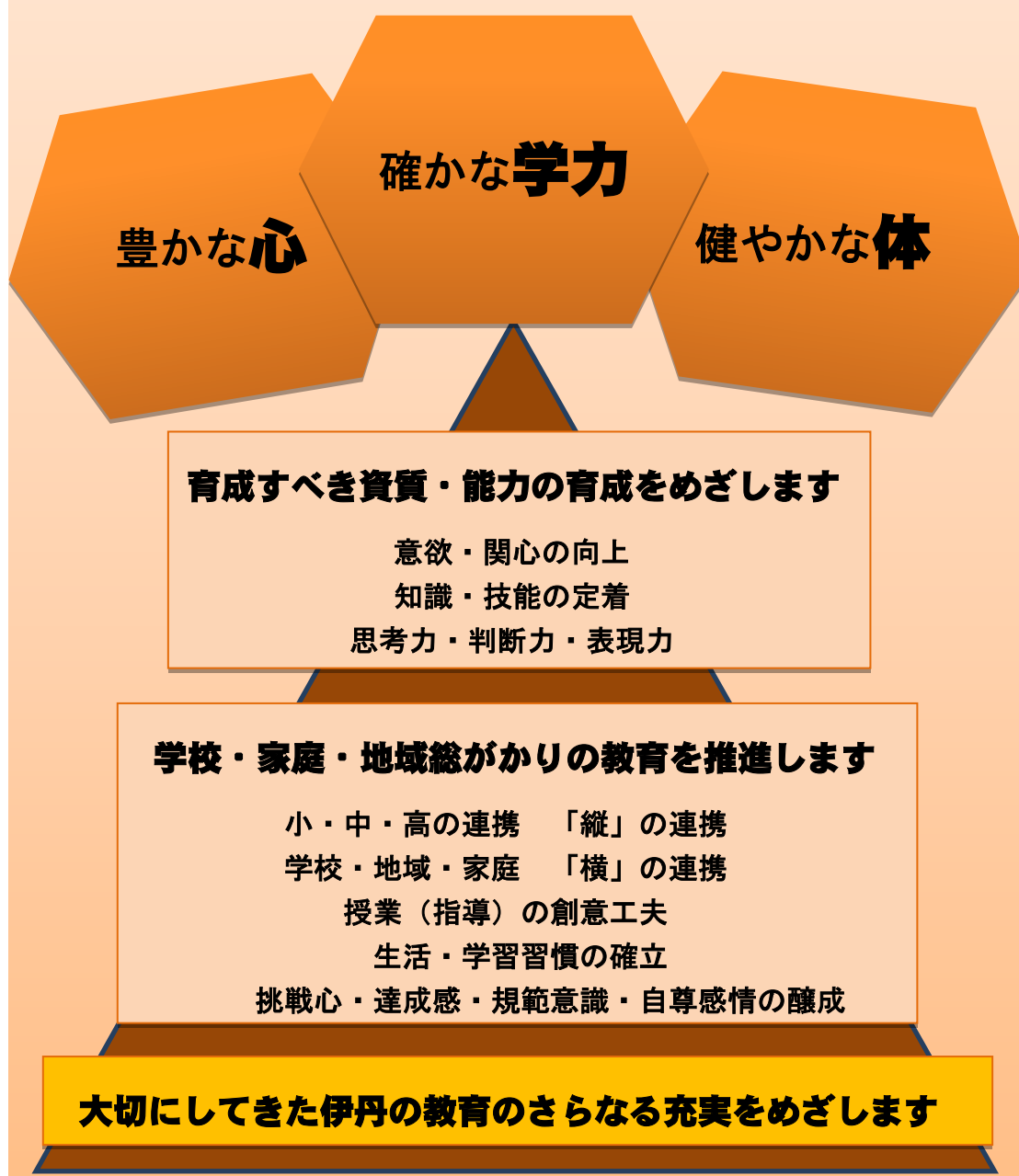
2 分野別レーダーチャート



- 語形・語法・語順などの基本的な文型が概ね身につけている
- 自己表現力（条件英作文、自由英作文）に改善が見られる
- 英文を聞いたり読んだりして、文脈や概要をつかむ力に課題がある
- 英問英答に課題がある
- 英語の綴りや英文を書く問題の無解答率が高い

伊丹の子どもたちの

生きる力を育む

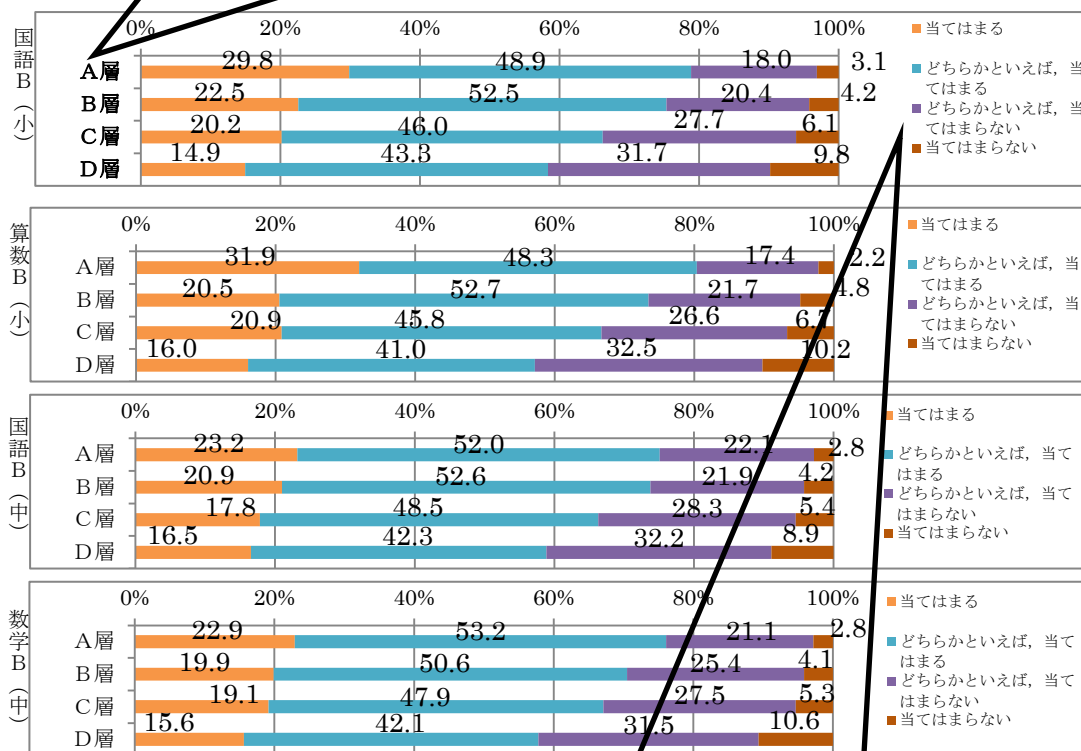


「全国学力・学習状況調査」で実施された学習状況調査の質問内容です。小学生・中学生それぞれに質問しています。

具体的取組ページの説明

学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか

A～Dの層は、伊丹市の児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



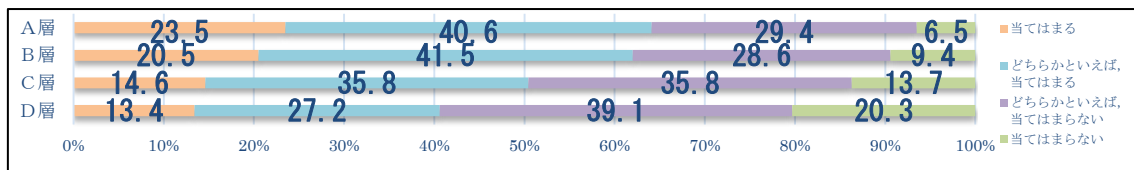
小学校国語B・小学校算数B・中学校国語B・中学校数学Bの平均正答率と、学習状況調査の回答とのクロス集計を示しています。
 例えば、小学校国語Bを見ると、質問項目にあるような学習活動に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした子どもが78.7%もいます。つまり質問項目のような学習活動に取り組んだ児童生徒の平均正答率が高いことがわかります。

1 授業改善 (主体的・対話的で深い学びの視点)

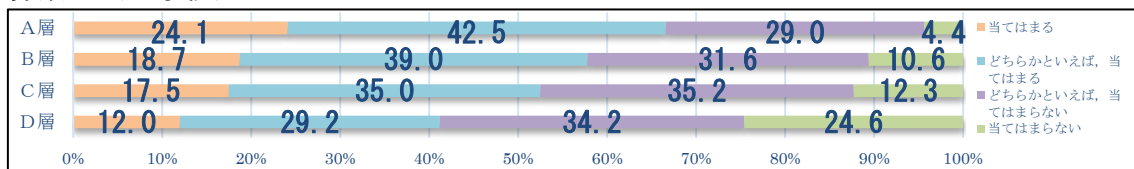
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

自分の考えを發表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して發表していたと思いますか

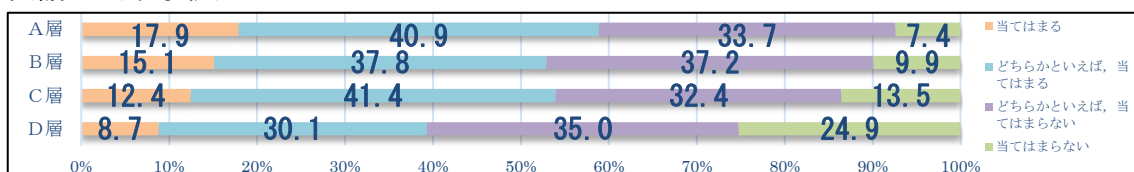
国語B (小学校)



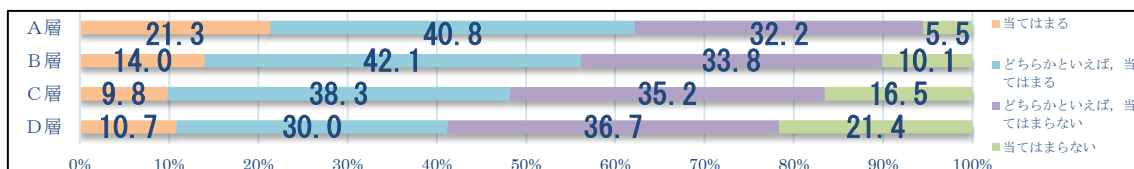
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を推進する

- ・ 自分自身が学びの主人公となり、一人で考える、調べる、書くといった活動を通して、既得の知識に加え、新しい知識や技能を習得させる
- ・ 友だちとの協働学習、教職員や地域の人との対話等を通して、考えを交流したり、自分の考えと他の人との考えを比較したりして、自分自身の考えを広げ、深めていく学習活動に取り組ませる
- ・ 既得の知識や新しく得た知識や技能を関連付けて深く理解したり、課題を捉えて解決を図ったりする学びの場を創る

学校組織としての校内研究を推進する

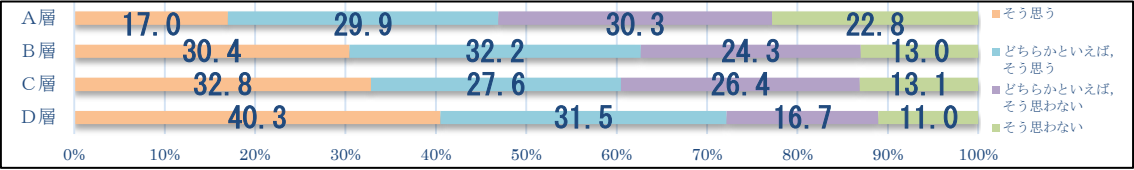
- ・ 各種調査等の結果分析、分析に基づいた取組プランを策定・実行する
- ・ 自校の課題に対応した模擬授業や事例研究等の実践的な研修を行う

学校 2 考えて書く活動の充実

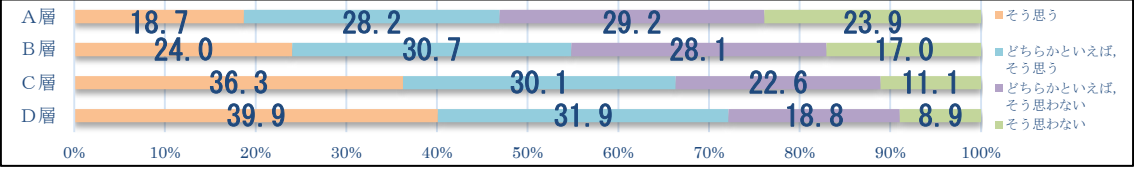
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

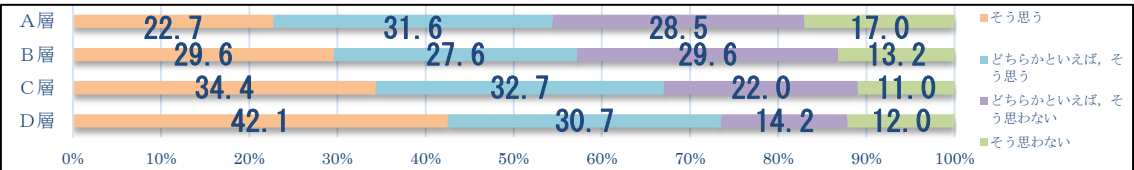
国語B (小学校)



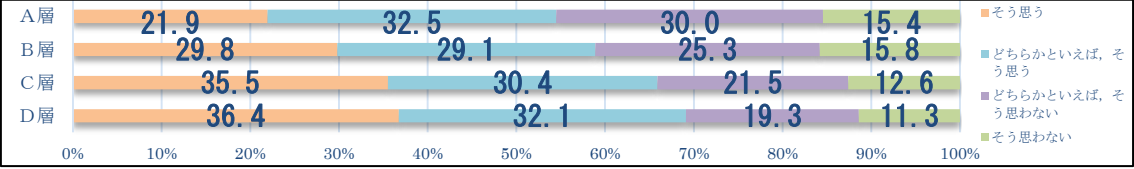
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



書く活動を教科等、特別活動、行事等のあらゆる機会を設定する

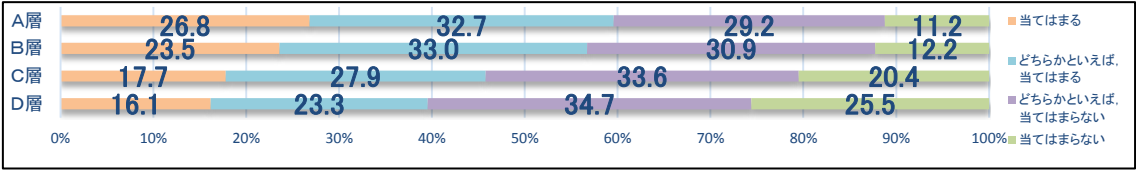
- ・各学年において必要な書く力を身につけさせる書き方の指導を充実させる
- ・自由作文に加え、複数の資料を比較して書く、条件に応じて書く、文章を要約して書く、意見と事実を区別して書く等、様々な形態の文章を書かせる
- ・自分の考えを説明したり、発表したりする際に、文章で書かせる指導を行う

学校 3 発表する活動の充実

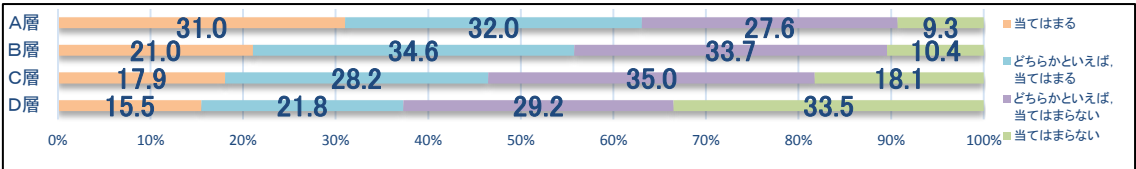
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

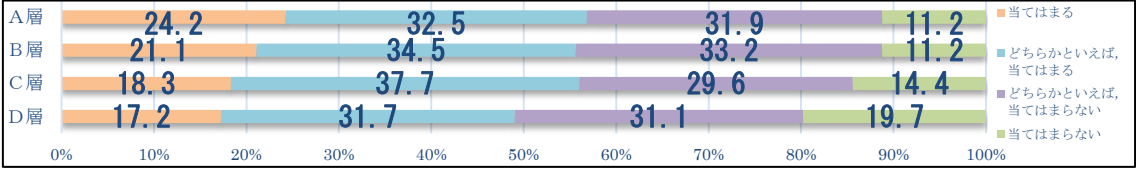
国語B (小学校)



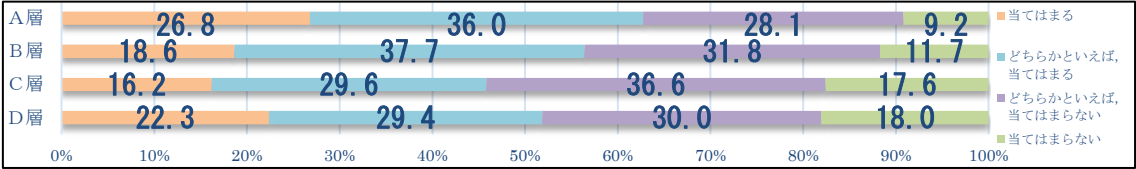
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



自己表現の場として、発表する場を設定する

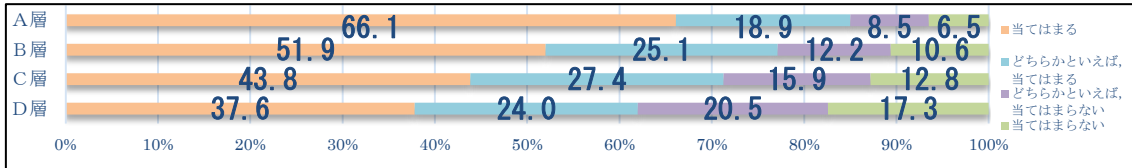
- ・各学年で必要な話し方の指導を充実させる
- ・意見発表やプレゼンテーション、討論等、多様な話し方のスキルを身につけさせる
- ・ペアやグループ活動など多様な学習形態を用いた授業を実践する
- ・単元や教材の中で、学習した内容を用いて、表現する学習活動を実施する

4 読書活動の充実

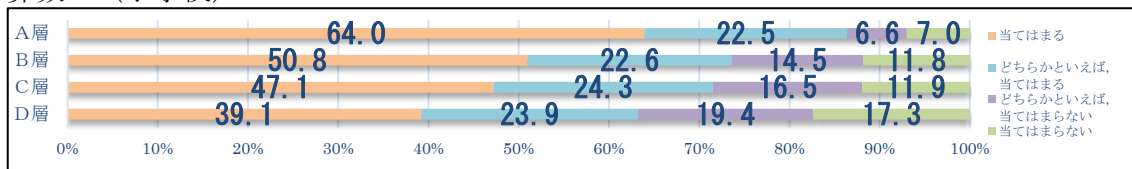
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

読書は好きですか

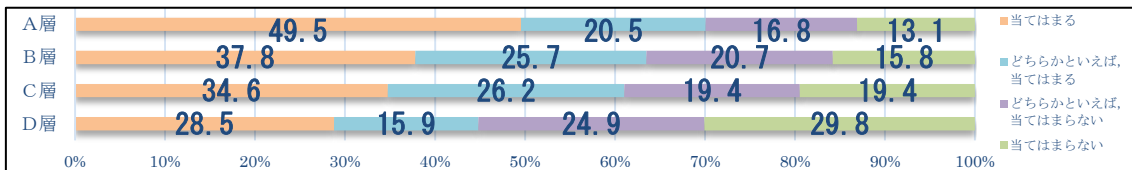
国語B（小学校）



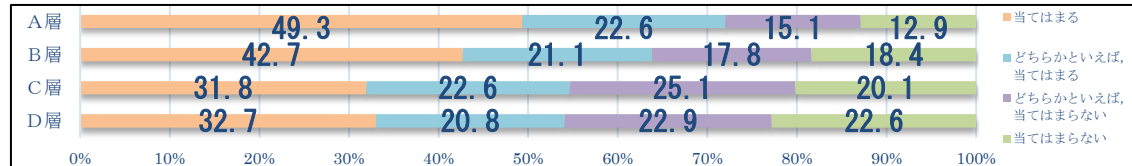
算数B（小学校）



国語B（中学校）



数学B（中学校）



読書への興味を高める取組を実施する

- ・ 朝読書や読み聞かせを通して、読書への興味を持たせる
- ・ 学校司書との連携や学校図書館の活性化を図り、学校図書館の利用を促進する
- ・ 図書日よりや図書館まつりなどの啓発活動を実施し、学校図書館の活性化を図る
- ・ 伊丹市立図書館「ことば蔵」との連携を推進し、読書への興味を持たせる
- ・ 蔵書管理のデジタル化を推進し、図書館環境の整備を行う

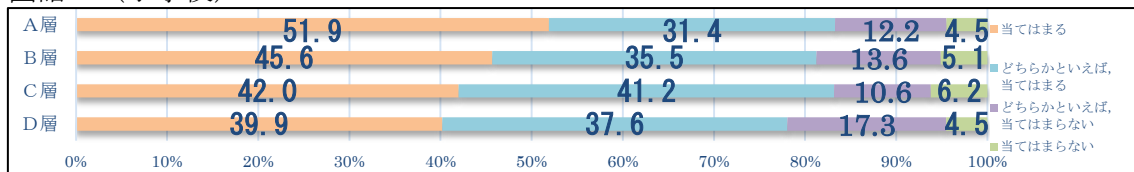
5 わかる授業の創造

(学力低位層の底上げ)

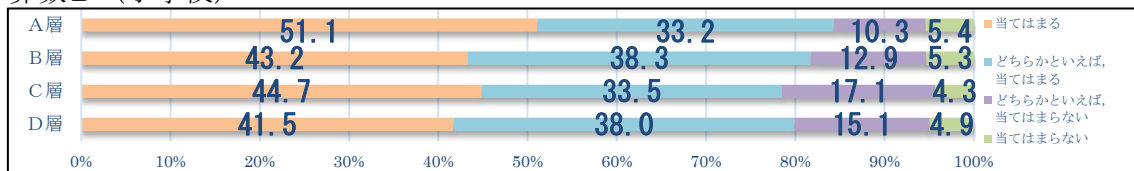
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいませんか

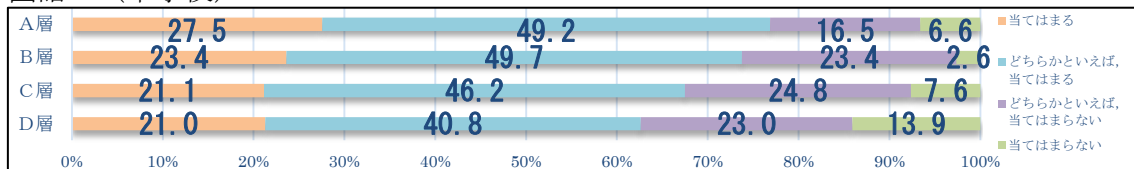
国語B (小学校)



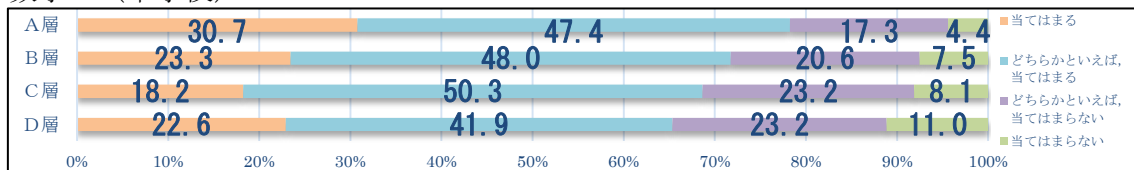
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



児童生徒が「わかった」と実感する授業を実践する

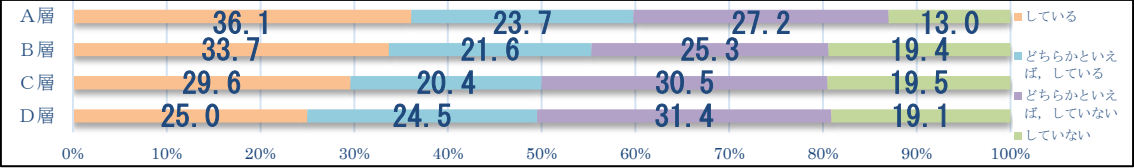
- ・ 学力調査や評価テスト、単元テスト等を活用し、学習内容の定着状況を把握し、基礎学力を身につけさせる
- ・ 新学習システムや学力向上支援教員等を活用し、少人数によるきめ細やかな指導を行い、学習のつまづきを解消する
- ・ 授業のユニバーサルデザイン化やICTの活用を進めるなど、わかりやすい授業を行い、児童生徒の学習意欲を向上させる
- ・ ノート指導をきめ細かく行い、学習内容を定着させる
- ・ 放課後学習や長期休業中の補習を通して、個に応じた補充を行う
- ・ 学習内容を定着させる家庭学習に取り組ませる

家庭 **6 生活習慣の確立**

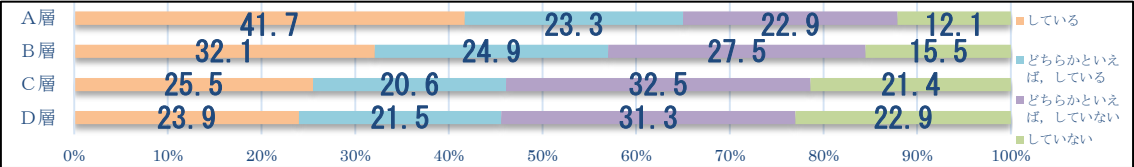
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか

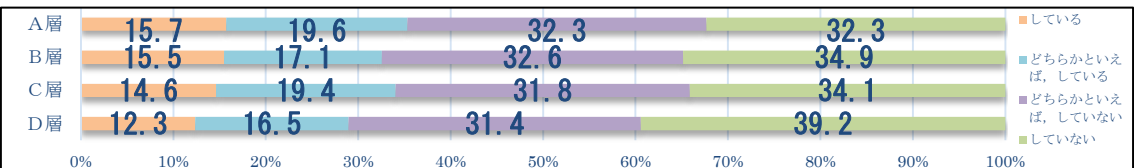
国語B (小学校)



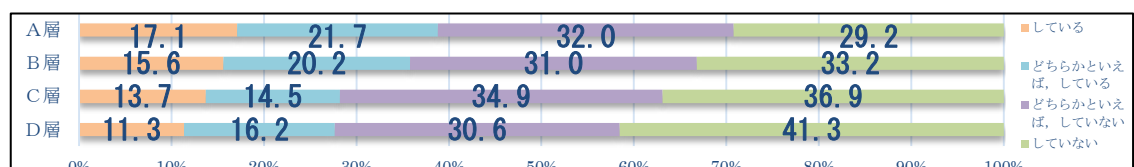
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



生活習慣と子どもの学力向上に高い相関があります！

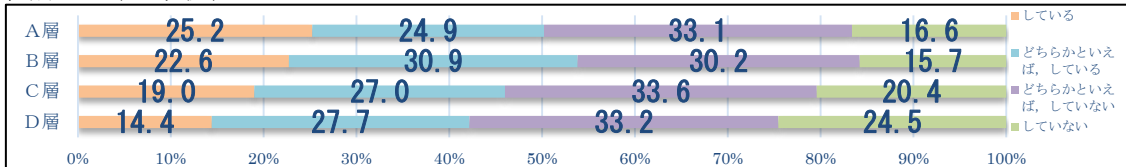
- ・就寝時間、学習時間、テレビの視聴時間、携帯電話の使用時間等、家庭の中での「約束ごと」を子どもと一緒に考え、守らせましょう
- ・いろいろな物事に取り組む際に、目標を持って取り組む経験をさせることが大切です（例えば、○日間で完成させるとか、○○まであきらめないなど）
- ・いろいろなことを覚えなくなったり、自分でできることが増えてきたり、物事への興味関心が高まる幼児期、低年齢期こそ習慣づくりが重要です

7 学習習慣の確立

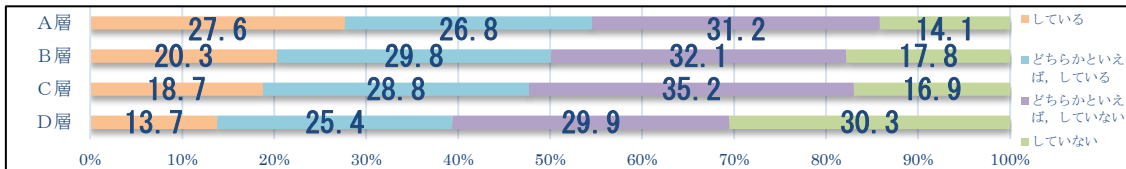
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

家で、学校の授業の復習をしていますか

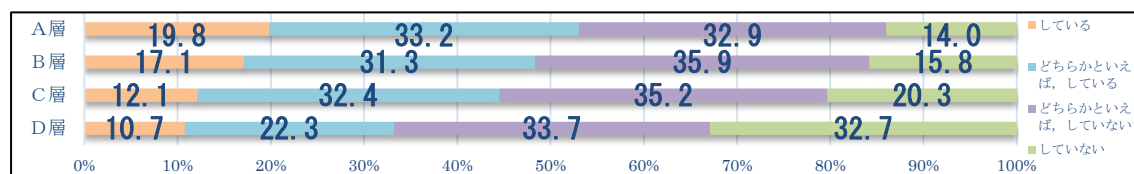
国語B（小学校）



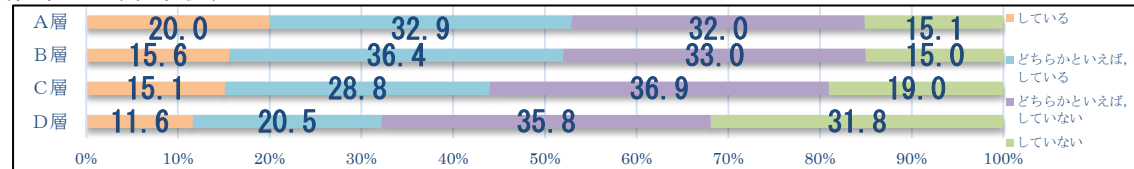
算数B（小学校）



国語B（中学校）



数学B（中学校）



学校と家庭の連携を図り、家庭での学習習慣づくりをしましょう

- ・宿題だけで終わらず、自ら計画を立てさせて自主学習に取り組ませましょう
- ・授業の予習・復習に取り組ませましょう
- ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習のへや」を活用し、家庭での学習活動を充実させましょう
- ・土曜学習会を活用して休日の規則正しい生活習慣や学習習慣をつくりましょう

読書も学力向上と高い相関があります！

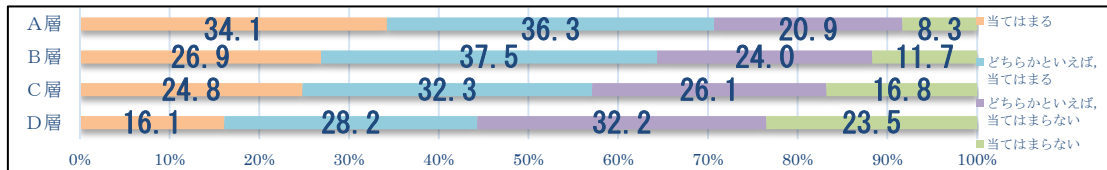
- ・子どもが自分から進んで本を読むことは難しいです。地域の図書館を利用したり、話題の本を調べたりして本に触れる機会を積極的につくり、読書に親しませることが大切です

8 社会事象に関心を持つ

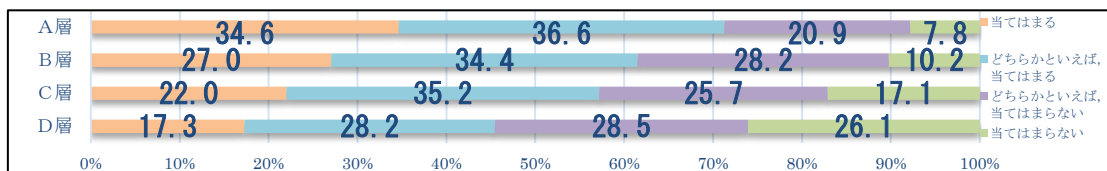
学力に関係の大きい学習状況調査の質問項目を示しています。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

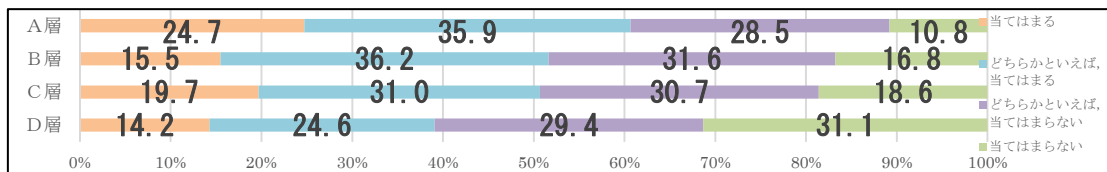
国語B (小学校)



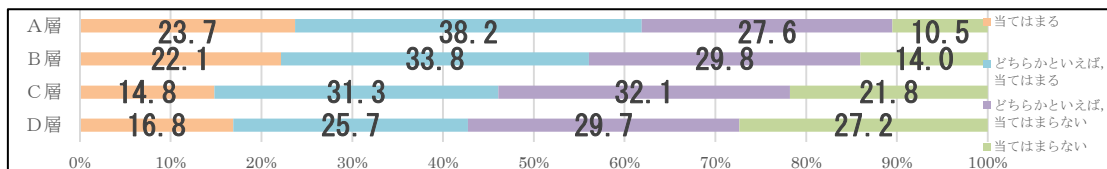
算数B (小学校)



国語B (中学校)



数学B (中学校)



地域や社会に対する興味・関心を持たせ、学校では学べないことを学ばせましょう

- ・地域活動や行事などに積極的に参加し、地域とのつながりや地域の伝統文化を大切にすることを育てましょう
- ・新聞を読ませたり、ニュースを話題にしたりして、世の中で起こっていることなどを話題にしながら、社会に関心を持たせましょう